

授 業 科 目 名	生理学	担 当 教 官	澤 田 只 夫		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	月曜日 水曜日	Ⅲ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果					
回	講 義 題 目	内 容			
1		生理学の歴史、血液			
2		血液の凝固と線溶、間質液及びリンパ			
3		血液と電解質			
4		循環			
5		呼吸			
6		消化と吸収・Ⅰ			
7		消化と吸収・Ⅱ、体温とその調節			
8		腎臓および尿路			
9		内分泌・Ⅰ			
10		内分泌・Ⅱ			
11		筋の働きと変化			
12		神経細胞の生理			
13		末梢神経系			
14		中枢神経系			
15		感覚器			
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心に行う				
成績評価の方法	中間と期末の筆記試験にて評価する。				
メ ッ セ ー ジ	特に、講義の予定範囲を予習し、また講義後には、予習によって十分理解するように心掛けると共に断片的な知識の詰め込みではなく、他の知識と関連させて理解することが大切である。				

授 業 科 目 名	解剖学	担 当 教 官	浅見知市郎		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	木曜日 火曜日	I 時限 III時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	組織、器官系、看護				
授業の達成目標及び期待される学習効果	人体解剖学の基本を学習し、看護職に必要な人体の構造に関する知識を深める。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	総論	解剖学という科目がいかなるものであるか解説する。すなわち、肉眼解剖、組織学、発生学といった構成からそれぞれの研究対象について理解させる。また、講義の進め方について説明する。			
2	組織学概要	人体を構成する素材である組織にはいかなる種類のものがあるか、それぞれの構造と機能について解説する。また、発生学的な相違について解説する。			
3	骨格系 I	骨とはそもそもどのようなものか、構造と役割について総論的に解説する。			
4	骨格系 II	頭部と体幹の骨について、形態、その他の諸器官との関係について解説する。			
5	骨格系 III	上肢、下肢の骨の形態について解説する。			
6	筋系 I	筋の総論と頭頸部、胸部の筋について解説する。			
7	筋系 II	腹部、背部、上肢、下肢の筋について説明する。			
8	脈管系 I	脈管系の中心をなす心臓の構造について講義する。			
9	脈管系 II	全身の動脈のおおまかな走行について解説し、その中で特に重要と考えられるものについては詳しく説明する。			
10	脈管系 III	全身の静脈のおおまかな走行について解説し、その中で特に重要と考えられるものについては詳しく説明する。			
11	脈管系 IV	リンパ系、脾臓、血液と血球について解説する。			
12	消化器系 I	口腔から胃までの消化管について解説する。			
13	消化器系 II	小腸と大腸の構造について講義する。			
14	消化器系 III	肝臓、胆嚢、膵臓の構造と、それぞれの位置関係について詳しく解説する。			
15	中間試験	前半の講義に関して試験を行う。			
テキスト, 教材, 参考書		入門人体解剖学 藤田恒夫著 南江堂			
成績評価の方法		筆記試験によって評価する。			
メッセージ		毎回指名します。必ず予習をしましょう。			

回	講義題目	内容
16	呼吸器系 I	鼻腔、副鼻腔、咽頭の構造と、それぞれの位置関係について講義する。
17	呼吸器系 II	喉頭、気管と気管支、肺について講義を行う。
18	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道について講義を行う。
19	生殖器系 I	男の生殖器(精巣と精巣上体、精管、精囊と前立腺、陰茎、精液と精子)について講義を行う。
20	生殖器系 II	女の生殖器(卵巣、卵管、子宮、胎盤、膣と外陰部)について講義する。
21	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、胸腺、副腎、膵臓のランゲルハンス島について、位置、形態、ホルモンについて解説する。
22	神経系 I	中枢神経系(脊髄、延髄と橋、小脳、中脳、間脳、大脳半球、脳室系、髄膜と髄液、脳の血管)について。
23	神経系 II	末梢神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経)について
24	神経系 III	神経系の主な伝導路(反射路、知覚性伝導路、運動伝導路)について
25	感覚器系	視覚器(眼球、眼球の付属器)、平衡感覚器(外耳、中耳、内耳)、皮膚(表皮、真皮、皮下組織、毛とその付属器、つめ、脂腺、汗腺、乳腺と乳房)
26	予備日	総括、期末試験対策

授 業 科 目 名	体の発生と発達	担 当 教 官	澤 田 只 夫		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	火曜日	I時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	ヒトのライフサイクルを中心に、生命の誕生と発達を分子・細胞・個体のレベルで考察することにより理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1		細胞の構造と働き、生体膜の働き			
2		体細胞分裂と減数分裂			
3		性の決定			
4		発生と死			
5		成長と発達・I			
6		成長と発達・II			
7		性の分化とホルモン			
8		メンデルは何を発見したか			
9		染色体と先天性異常			
10		ヒトの神経系			
11		人間性と行動・I			
12		人間性と行動・II			
13		ヒトの起源			
14		生命工学、遺伝子操作			
15		病気と予防、健康と生活環境			
テキスト, 教材, 参考書	「人間の生物学」 菊山、北川、桑沢、平田、音川、吉村著 培風館 改訂版				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心に進める				
成績評価の方法	中間及び期末の筆記試験で評価する				
メ ッ セ ー ジ	講義の予定範囲を予習し、また講義の後に復習を十分理解するように心掛ける				

授 業 科 目 名	物理学と看護人間工学	担 当 教 官	新 藤 悦 子		
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期	金 曜 日	Ⅲ時限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	選 択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	人間の特性、快適性、安全性、使い易さ、働き易さ、バリアフリー				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	人間の特性を理解し、人間(患者、看護婦(士)とも)やシステムとの関係をよりよい条件に整えるための知識を学び、患者の療養生活や看護の作業環境を調整する役割と機能を認識する。				
回 講 義 題 目	内 容				
1 看護人間工学とは	人間工学とは何か、人間工学は我々の日常生活にどのように貢献しているか、看護における人間工学の意義、看護人間工学の対象と目標などについて学ぶ。				
2 もの作りと人体寸法	身長と身体各部の寸法、身長とものの高さの関係について学び、生活姿勢、作業姿勢、さらに人間の動作空間について学ぶ。				
3 日常生活における動作特性と設備、家具	立体、椅子座位時の手足の動作空間、作業面、様々な姿勢と空間、床面、通路の動作空間と通路の広さなどについて学ぶ。				
4 もの、設備を考察する	<フィールドワーク>身の回りにあるもの、設備を測定し、使いやすさを考察する。				
5 感覚特性と安全性快適性	視覚特性と見えやすさ、空間認知の特性と地図、触覚と操作のしやすさなど感覚と安全性、快適性の関係を学ぶ。				
6 日常生活動作と使いやすさ	食べる、寝る、座る、清潔にする、排せつするという行為と使いやすさ、安楽性を考えた物、設備構造について学ぶ。				
7 使いやすさとは	<グループワーク>使いやすさとは一体何か。これまでの学習をもとに使いやすさの要因にせまる試み。				
8 障害者の動作特性とバリアフリーデザイン	バリアフリーとは、その視点からの障害者にとって安全かつ使いやすい配慮点を学ぶ。				
9 高齢者の動作特性とバリアフリーデザイン	バリアフリーの観点から高齢者の行動特性を知り、設備、空間にどのような配慮を必要としているかを学ぶ。				
10 車椅子使用とバリアフリー	<フィールドワーク>当短大において車椅子による移動を体験し、使いやすさ、安全性を考察する。				
11 病院(施設)病室(居室)と空間	対人距離とベッドの間隔、病室における患者のパーソナルスペース、看護作業とベッド周りの広さについて考える。				
12 ベッドと安楽性	患者の臥床時体位を力学的にとらえ患者にとって安楽な体位を理解する。また体圧と循環などの関係を学ぶ。				
13 働きやすさと使いやすさ (1)	看護作業の特徴から看護姿勢をとりあげ安全に安楽に援助する基本を学ぶ。				
14 働きやすさと使いやすさ (2)	病棟の構造、設備と看護婦(士)の行動から働きやすさ、使いやすさを考える。				
15 まとめ					
テキスト, 教材, 参考書	講義の中で提示する。				
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート・学習参加状況				
メッセージ	自分にあった椅子、作業しやすい空間、自立を助ける環境など、身近な問題をとりあげながら学んでいきます。				

授 業 科 目 名	栄養学	担 当 教 官	澤 田 孝 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期	水曜日	II時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	生体の構築における食品の役割				
授業の達成目標及び期待される学習効果	日常の食生活において正しい摂取の仕方を理解する能力を養うと同時に、各々の栄養源の生体への影響を考える。				
回	講 義 題 目	内 容			
1		栄養学の成り立ちと目的			
2		各栄養素の栄養的意義			
3		①タンパク質 ②脂質 ③炭水化物 ④無機質 ⑤ビタミン類			
4		食品のエネルギーと基礎代謝			
5		栄養所要量、エネルギー所要量			
6		成人の生活活動と栄養・老化と栄養			
7		食品構成と各種食品の特徴			
8		個人及び地域的な栄養状態の判定			
9		我が国の栄養の現状と栄養改善			
10		飲食物の摂取と消化吸収			
11		栄養障害と疾患の症候			
12		病人食の種類と食事療法のすすめ			
13					
14		食事療法の実際			
15					
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「栄養学」医学書院 [食品成分表]「食品交換表」				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心に進める 食品の標本の活用				
成績評価の方法	中間及び期末の筆記試験、レポートで評価する。				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	生化学	担 当 教 官	澤 田 只 夫		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	Ⅲ時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	我々の生命を一時も休まず支えているのは、数え切れない程の化学反応がみごとに統合された形で営まれているからである。これらのプロセスがどのように働いているかを理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1		生体の成り立ちと生命、細胞の構造			
2		タンパク質とアミノ酸			
3		生体の化学反応と酸素の役割			
4		糖質の役割			
5		脂質、水、無機質			
6		中間試験・代謝の概要			
7		糖質代謝			
8		脂質代謝			
9		タンパク質代謝、生体エネルギー、代謝調節			
10		ヌクレオチド、DNAの複製			
11		タンパク質の生合成、分子医学			
12		ホルモン、ビタミン			
13		血液			
14		尿、酸塩基平衡			
15		生体防御、分子免疫			
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「生化学」医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心に進める				
成績評価の方法	中間及び期末の筆記試験にて評価する				
メ ッ セ ー ジ	講義の予定範囲を予習し、また講義後には、復習により十分理解するように心掛ける。				

授 業 科 目 名	スポーツと健康 スポーツ(実技)	担 当 教 官	近 藤 照 彦		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	火曜日	V時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	選択スポーツ・車椅子操作と介助・車椅子スポーツ・レクリエーションスポーツ・12分間走・運動生理学・運動処方				
目 標	<p>前期科目のスポーツは、個人の健康や体力を単なる知識としてではなく、自ら身体を動かすことを通じて把握し、生涯にわたりそれらを維持、増進できる能力を養います。スポーツを日常生活に取り入れられるように、学生が個人に合ったスポーツを選択して楽しめるスポーツを経験してもらいます。将来、保健、医療および福祉の分野で活躍される学生にとって障害をもつ人たちも含めた身心の理解を深めることを目的とした車椅子スポーツを体験します。</p>				
概 要	<p>前期のスポーツは、個人の体力の現状を把握することを課題とします。短大周辺のウォーキングを行い、自然環境を探索しながら体力の現状を個人の主観で把握し、現状に適した体力づくり(コンディショニング)を行います。12分間走を行い、個人の最大酸素摂取量を推定し、全身持久力からみた体力の客観的な評価を行います。</p> <p>選択スポーツは、個人の選択により、体育館内のバレー・バスケ・ストレッチング・空手【暴漢への護身術】など、屋外では総合グラウンドや三国遊歩道でレクリエーションスポーツを行います。トレーニングルームに設置されたエアロバイクやダンベル体操の使用方法を学び、学生生活における体づくりに役立てます。</p> <p>車椅子スポーツは、介助や移動の方法、前進やターンの基本操作、段差昇降に必要なキャスター挙げなどの応用操作を経験します。車椅子バスケットボールのゲームを障害者の人たちと一緒にを行い、障害者の身心を理解します。</p>				
学 習 効 果	<p>個人の選択したスポーツを継続し、楽しさを体験することは、生涯スポーツへの発展につながるものと思われます。障害を持つ人たちとスポーツを行うことによって、身心ともに共通な理解が深まることと思われます。また、個人の健康や体力の現状を主観的かつ客観的に考え行動できる能力が身につくものと思われます。</p>				
体 力 レ ベ ル	<p>個人の体力や運動能力の優劣を評価する授業ではありません。医師から運動を禁止あるいは、注意されている者は、申し出てください。</p>				
形 式	<p>実技としてスポーツを行います。</p> <p>各自A6サイズの小さな講義用ノートを準備し、各授業で行ったこと、個人の測定結果や体や心について毎日記録してください。たまに点検します。</p>				
テキスト、教材、参考書	<p>テキストなし。</p> <p>必ず運動のできるトレーニングウェア(フリースタイル)、体育館シューズ、屋外シューズの準備をしてください。</p>				
成績評価の方法	<p>出席を重視します。態度や姿勢および健康科学のレポートを参考に評価します。優秀レポート者を掲示します。</p>				
メ ッ セ ー ジ	<p>集合は、5分前の時間厳守、動きのある積極的な団体行動と元気ある挨拶を期待します。</p>				

回	講義題目	内 容
1	オリエンテーション	体育館にて教官自己紹介、授業計画の説明と問診表、健康意識のアンケート調査をそれぞれ実施します。用具および清掃の係をそれぞれ選出します。
2	コンディショニング	短大周辺をウォーキングしながらグラウンド、テニスコート、運動公園の施設を知ってもらいます。わらび荘へ挨拶に行きます。
3	コンディショニング	グラウンドにて12分間走のオリエンテーションとストレッチングを実施します。
4	コンディショニング	グラウンドにて12分間走を実施します。
5	コンディショニングと体脂肪率測定	12分間走予備日とします。
6	選択スポーツとトレーニング	各種選択スポーツとトレーニングルームにて体づくりの方法を学びます。
7	選択スポーツとソフトボール大会の練習	各種選択スポーツとトレーニングルームにて体づくりの方法を学びます。
8	選択スポーツとソフトボール大会の練習	各種選択スポーツとトレーニングルームにて体づくりの方法を学びます。
9	選択スポーツとトレーニング	各種選択スポーツとトレーニングルームにて体づくりの方法を学びます。
10	選択スポーツとトレーニング	各種選択スポーツとトレーニングルームにて体づくりの方法を学びます。
11	選択スポーツとトレーニング	各種選択スポーツとトレーニングルームにて体づくりの方法を学びます。
12	車椅子とスポーツ	一般タイプの車椅子を使って介助法と基本操作を学びます。
13	車椅子とスポーツ、障害者と一緒に	スポーツタイプの車椅子を使って操作法とバスケットボールを行います。
14	車椅子とスポーツ、障害者と一緒に	障害者と一緒にバスケットボールを行います。
15	車椅子とスポーツ、障害者と一緒に	障害者と一緒にバスケットボールを行います。

授 業 科 目 名	スポーツと健康 健康科学(理論)	担 当 教 官	近 藤 照 彦		
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	火 曜 日	I 時 限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	必 修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	選択スポーツ・車椅子操作と介助・車椅子スポーツ・レクリエーションスポーツ・12分間走・運動生理学・運動処方				
目 標	後期科目の健康科学は、運動生理学、医学、栄養学および心理学と関連した学際的領域にある幅広い学問です。授業は、健常者および障害をもつ人の運動とからだの関係を運動生理学の領域から学びます。障害をもつ人を含めた健康づくりの原理と方法を学びます。				
概 要	後期の健康科学は、入門運動生理学のテキストを中心に講義し、実習として個人の生活や健康調査、身体計測、体脂肪率の推定、最大酸素摂取量の推定を行い、個人の運動処方を作成します。				
学 習 効 果	個人の選択したスポーツを継続し、楽しさを体験することは、生涯スポーツへの発展につながるものと思われます。障害を持つ人たちとスポーツを行うことによって、身心ともに共通な理解が深まることと思われます。また、個人の健康や体力の現状を主観的かつ客観的に考え行動できる能力が身につくものと思われます。				
体 力 レ ベ ル	個人の体力や運動能力の優劣を評価する授業ではありません。医師から運動を禁止あるいは、注意されている者は、申し出てください。				
形 式	理論として健康科学を行います。 各自A6サイズの小さな講義用ノートを準備し、各授業で行ったこと、個人の測定結果や体や心について毎日記録してください。たまに点検します。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	オリエンテーション・12分間走・「グランド」・高山村運動会選手選定	授業計画の概要説明と12分間走を行います。個人における運動の効果を客観的に把握します。			
2		12分間走予備日「グランド」と高山村運動会の練習			
3		運動とからだ・運動エネルギー発生・運搬・利用			
4		運動のエネルギー発生・運搬・利用			
5		運動の消費能力を向上させるトレーニング			
6		肥満と効果的なダイエット			
7		肥満の評価と判定			
8		運動と健康増進プログラム			
9		障害者スポーツ・長野パラリンピック回想VTR			
テキスト, 教材, 参考書	テキスト「入門運動生理学」(杏林書院) 定価2,200円 各自購入して下さい。				
成績 評 価 の 方 法	出席を重視します。態度や姿勢および健康科学のレポートを参考に評価します。優秀レポート者を掲示します。				
メ ッ セ ー ジ	集合は、5分前の時間厳守、動きのある積極的な団体行動と元気ある挨拶を期待します。				

回	講 義 題 目	内 容
10		生活・健康調査表の作成
11		12分間走の効果判定、最大酸素摂取量の推定
12		皮下脂肪厚・筋厚の測定、体脂肪率の推定
13		健康科学レポートのまとめ方
14		健康科学レポートのまとめ方
15		健康科学レポートの提出・障害者とスポーツ VTR

授 業 科 目 名	こころと看護	担 当 教 官	大 沢 博		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	水曜日	Ⅲ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	看護 心 こころと栄養 メンタルヘルス				
授業の達成目標及び期待される学習効果	看護におけるこころの問題を理解する				
回 講 義 題 目	内 容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の3つの次元:精神・こころ・身体 ・還元主義の非人間性 ・こころと身体 ・脳のはたらきと心 ・メンタルヘルスということ ・メンタルヘルスと栄養 ・精神疾患と栄養 ・看護における心の理解 				
テキスト, 教材, 参考書	「食原性低血糖症」 大沢 博著 ブレーン出版				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 スライド使用				
成績評価の方法	ペーパーテスト				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	文学	担 当 教 官	藤 本 宗 利		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	第2、3、4 土曜日	I、II時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	平安時代の文化、女流文学、宮廷文化				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	古典文学の基礎的知識の修得ならびに、日本文化の基層への理解				
回	講 義 題 目	内 容			
	「平安女流文学の世界」	<p>平安時代は、わが国の文化が独特な発展を遂げた時代である。中でも子の時代、主として中流貴族階層の出身の女性たちが、多くの作品を書き残していることは、注目すべき事実である。本講座は、まさに百花繚乱の趣のある平安朝女流文学の中でも、現実世界を描く代表的な五作品を例に、その根源に流れる日本的なものの方・考え方を読み取ることを目的とするものである。</p> <p>なお、取り上げる作品は、以下の五作品である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蜻蛉日記 ・和泉式部日記 ・枕草子 ・紫式部日記 ・更級日記 			
テキスト, 教材, 参考書	プリントを配布				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義				
成績評価の方法	レポート及び平常点による総合評価				
メ ッ セ ー ジ	平安朝文学の優雅さに触れる。				

授 業 科 目 名	教育学	担 当 教 官	本 吉 修 二		
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期	水 曜 日	Ⅱ 時 限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	選 択		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果					
回 講 義 題 目	内 容				
	<p>教育とは、人間が人間になる過程を助成するものである。 この意味では、教育は生活のあらゆる場と時に存在している。そのような教育の本質や機能や方法などを研究し、よりよい教育を実現するための知見を提供するのが教育学の役割である。</p> <p>「現代教育の諸問題」と題して「高学歴社会の現実と教育」、「社会生活の豊さと教育」、「国際化の時代と教育」といったテーマについて学生に問題意識を喚起する。</p>				
テキスト, 教材, 参考書	教育改革の思想 「国家主義から人間主義」 村井 実 著				
成績 評 価 の 方 法	講義				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	カウンセリング論	担 当 教 官	大 沢 博		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期	水曜日	Ⅲ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	カウンセリング 人間観 援助関係				
授業の達成目標及び期待される学習効果	援助のいとなみであるカウンセリングの基本を理解する。				
回 講 義 題 目	内 容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングとは何か ・援助関係 ・カウンセリングと人間観 ・人間を認識する3つのアプローチ ・クライアントとカウンセラー ・カウンセリングのプロセス ・カウンセリングの体験的理解 				
テキスト, 教材, 参考書	「看護にいかすカウンセリング」 白井幸子 著 医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 ビデオ 録音テープ スライド使用				
成績評価の方法	レポート				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	情報処理入門	担 当 教 官	西谷 泉		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	月曜日	I、II時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	統計学基礎、情報処理、ワープロ、表計算				
授業の達成目標及び期待される学習効果	統計学の基礎を学び、コンピュータを使って、統計処理ができるようにする				
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>現代社会は高度情報化通信化社会である。医療の社会にも情報通信化の波は着実に押し寄せてきており、今後医療の世界に入りろうとしている者にとって、情報科学・情報処理技術の要素は不可欠である。本講義では、「情報」の概念及び「情報処理」、「統計学」の基礎を指導する。併せて「情報処理」の中心となる「コンピュータ」について基礎知識を指導する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何か 2. 情報処理の基本的知識 3. データ処理の方法(統計学の基礎知識) 4. 医療における統計処理 5. コンピュータの歴史 6. コンピュータの基礎知識 7. コンピュータの使い方 8. インターネット等の活用 			
テキスト, 教材, 参考書	「Windows対応一太郎8」「Windows対応ロータス1.2. 3」				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心に進めるが、実習も取り入れて進める。				
成績評価の方法	試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は講義の中で説明する。				
メ ッ セ ー ジ	本講義は、「情報処理入門演習」と連携して進めるので、「情報処理入門演習」も必ず受講すること。本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについて予備知識はとくに必要としない。				

授 業 科 目 名	情報処理入門演習	担 当 教 官	西 谷 泉		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	I、II時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	情報処理、ワープロ、表計算				
授業の達成目標及び期待される学習効果	コンピュータを使って、文書作成、データ処理等の実習をし、実際にコンピュータが活用できるようにする。				
回 講 義 題 目	内 容				
	<p>本講義では、講義「情報処理入門」の演習である。よって「情報処理入門」とセットで受講しなければならない。1人1台のコンピュータを使用して演習する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎知識 2. Windowsについて 3. ワードプロソフトの使い方 4. 表計算ソフトの使い方 5. 実例・演習を豊富に取り入れた情報処理の演習 				
テキスト, 教材, 参考書	「Windows対応一太郎8」「Windows対応ロータス1. 2. 3」				
授業の形式、視聴覚教材の活用	実習を中心に進める。コンピュータは1人1台の形で使用するので希望者が多い場合は、人数を制限することも考える。				
成績評価の方法	試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は講義の中で説明する。				
メ ッ セ ー ジ	本講義は「情報処理入門」と連携して進めるので、「情報処理入門」も必ず受講すること。本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについての予備知識はとくに必要としない。				

授 業 科 目 名	数学	担 当 教 官	石 井 満		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	木曜日	V時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果					
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>現代数学は古典的な数学とは様相を異にしている。20世紀に入ってから発達した現代数学はその扱う対象を抽象的な関係性そのものに拡大してきた。ここでは現代数学の歴史を振り返って、数学がどの様に発展してきたのかを集合論、論理学などを題材にとり解説する。</p>			
テキスト, 教材, 参考書	プリント				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義				
成績評価の方法					
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	統計学	担 当 教 官	石 井 満		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	木曜日	V時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択			
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果					
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>統計学は、情報収集によってとらえられる集団の特性をなるべく分かりやすく、一目瞭然に表す方法を研究したり、その結果を提供する学問である。どの資料や情報をどこからどのように集め、それをどのように整理分析して結論を導いていくという方法論を作り上げていくためには、どうしても統計学の知識が必要であり、ここに統計学の面白さと学問的意義がある。ナイチンゲールは、まさにこのことをずばり応用実践した最初の女性統計学者であった。彼女の統計学的業績を学び、看護研究に必要な統計の基礎知識と技術を習得する。</p>			
テキスト, 教材, 参考書	プリント				
授業の形式、視聴覚教材の活用					
成績評価の方法					
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	医療・看護と法律	担 当 教 官	須 藤 勲 子		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	月 曜 日	Ⅲ時限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	必 修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	現代社会においては、医療の進歩に伴い一般の人々の考え方が、医療もまた医療従事者との間の契約関係であるとの意識が深められている。これに対応するためにも医療行為の一端をになう看護自身が法的背景を認識することにより自他を擁護できるようになることをこの科目の目的とする。				
回	講 義 題 目	内 容			
	I. 序論 II. 法規の概念 III. 医事法規 IV. 薬事法規 V. 保健衛生法規、環境衛生法規、公害関係法規、福祉関係法規のなどの中から看護婦(士)業務遂行上必要と思われる部分を取り上げる。	社会と法 法の定義、特徴、目的 法の道徳 法の用語 A. 法規の概念 B. 衛生法規の意義、沿革、分類 C. 衛生行政のしくみ A. 保健婦助産婦看護婦法 1. 保助看法沿革 2. 保助看法の構造と付属法令 3. 保助看法の目的、定義、免許、試験、業務等 4. 医療過誤 ・ 医療過誤とは、事故と過誤、判例 ・ 発生時の対応等 5. 看護婦の医療における役割 ・ 医療事故と看護事故 ・ 看護業務と医療事故 ・ 医療事故の法的解釈 ・ 事故防止のために B. 医師法・歯科医師法 C. その他・理学療法士等法制化されているコメディカル職種の概略 D. 医療における今日の問題 ・ 脳死、安楽死、臓器移植など 薬事法 ・ 麻薬、向精神薬取締法 等			
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座 別巻 ⑩ 関係法規 参考書:看護六法・厚生指標				
成績評価の方法					
メッセージ					

授 業 科 目 名	公衆衛生学	担 当 教 官			
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	金曜日	Ⅲ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	公衆衛生学と公衆衛生活動、健康、人口、保健統計、健康のリスク、疫学、環境因子、環境保健、健康管理、地域保健、保健所				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	個人に対するアプローチである臨床に対して、健康問題を個々人の集合体である集団のレベルでとらえたアプローチである公衆衛生の見方を学び、健康に関する諸事象・諸問題を多元的にとらえる力を身につける。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	公衆衛生とは	公衆衛生の概念、公衆衛生学と公衆衛生活動、課題としての「健康」			
2	健康の指標 — 人口	人口の増加と減少 — 21Cは少子・高齢・人口減少社会、出生、婚姻と離婚、人口の高齢化、過密過疎と人口移動			
3	健康の指標 — 保健統計	平均寿命、諸死亡率、罹患率・有訴者率・受療率			
4	健康のリスク	健康のリスク、疫学			
5	健康のリスク	疾病の発生要因とそれへの対策			
6	環境因子	物理的環境因子、化学的環境因子			
7	環境因子	生物学的環境因子、発がん因子・環境変異原・催奇形性因子、社会的環境因子			
8	環境保健	地域環境衛生(上水道、下水道、廃棄物処理)			
9	環境保健	地球環境問題、環境保健対策			
10	保健活動展開の原則	健康管理の原則、スクリーニング、正常値、プライマリーヘルスケア			
11	地域保健	地域、地域保健行政(保健所)			
12	地域保健	母子保健、成人・老人保健			
13	地域保健	救急医療システム、地域環境衛生、僻地の保健活動			
テキスト, 教材, 参考書	講義はプリントによる。(ファイルを用意してください) 参考書は授業時に紹介する。				
成績評価の方法	試験、平常点(出席、取り組み姿勢)				
メ ッ セ ー ジ	近接科目との関連を踏まえ、とくに「疫学」と「環境」に重点をおくことにしたい。				

授 業 科 目 名	看護と社会福祉	担 当 教 官	内 藤 和 美		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	金曜日	V時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択			
授 業 の キ ー ワ ー ド	社会福祉、生活の質、社会保障、公的扶助、医療保険、年金保険、高齢化福祉、児童福祉、障害者福祉、ソーシャルワーク				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	患者さんは病を得た人であるとともに(ある以前に)、生活者であり、看護と社会福祉は、ともに人の生存と生活の質の確保にかかわる不即不離の専門性である。講義では看護職に不可欠の社会福祉の基礎知識を身につける。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	社会福祉とは	社会福祉の概念・定義、社会福祉の理念、社会福祉の対象、社会福祉の機能			
2	社会福祉の構造	制度・政策の体系、実践の体系、社会福祉と看護			
3	社会福祉の構造対象＝生活問題	貧困による生活問題、生活問題の拡大、医療看護における生活問題、生活問題の発生過程			
4	社会福祉の法律と制度	社会保障(所得保障、社会サービスと福祉サービス)、社会福祉の法体系			
5	社会福祉の法律と制度	社会福祉の組織と運用			
6	生活保護	基本原理、保護の原則、保護の種類と方法、現状と課題			
7	社会保障	社会保障、社会保険、医療保険			
8	社会保障 高齢者の福祉	年金保険 高齢者の社会的・身体的・精神的変化とニーズ			
9	高齢者の福祉 児童の福祉	高齢者の福祉サービス 児童福祉の理念			
10	障害者の福祉	障害の概念、障害の種類			
11	障害者の福祉	生活障害の除去、障害者福祉サービス			
12	社会福祉援助活動の方法－1	インフォームドチョイス、カフェテリアプラン方式、社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)			
13	社会福祉援助活動の方法－2	社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)、社会福祉の専門職			
テキスト, 教材, 参考書	講義はプリントによる。(ファイルを用意してください) 参考書は授業時に紹介する。				
成績評価の方法	試験、平常点(出席、取り組み姿勢)				
メ ッ セ ー ジ	介護保険制度時代を迎え、看護と社会福祉は益々不即不離です。				

授 業 科 目 名	家族論	担 当 教 官	内 藤 和 美		
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期	金 曜 日	I 時 限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	必 修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	人と人、ケア、近代家族、性別秩序の社会と家族、2種類の労働、家族と暴力				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	「家族論」をより広げて、「人と人が共に在ること」にかかわる諸事象を多元的にとりあげて考察する。看護職として人と人との間に起こること、人と人との共同性ひいては社会についての見識を肥やすことを目的とする。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	ケアということ	ケアとはなにか、ケアという思想の可能性			
2	家族とは	家族＝近代家族とは、近代家族と基本的性格、近代家族の機能、近代家族を支えてきたもの、国際家族年の理念			
3	家族の変化	近代家族の不安定性、「家族の変化」とは何か、世帯の動向に見る家族の形態の変化			
4	性別と性別秩序	性別とはなにか、日本社会の秩序軸としての性別			
5	性別秩序はなぜ問題か	日本の「常識」と国連の見解(国際的合意)			
6	戦後日本社会の性別秩序	高度経済成長期—2つの性別分業			
7	戦後日本社会の性別秩序	高度経済成長期後—2つの性別分業の変化			
8	21Cの新たな社会秩序	性別秩序から「能力と努力と状況対応秩序」へ			
9	21Cの新たな社会秩序	支払われる労働と支払われない労働とくに家事労働のゆくえ、政策課題と市民の課題			
10	暴力	人間的尊厳と人権、人間社会と強制力、暴力とはなにか、弱者とは誰か			
11	ケアと暴力・家族と暴力	人間間行為としてのケアと暴力、家族と暴力 — 児童虐待			
12	家族と暴力	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス			
13	家族と暴力	ドメスティック・バイオレンス			
テキスト, 教材, 参考書	講義はプリントによる。(ファイルを用意してください) 参考書は授業時に紹介する。				
成績評価の方法	試験、平常点(出席、取り組み姿勢)				
メ ッ セ ー ジ	ご自分の生き方と関連づけて考えてくださったら嬉しいです。				

授 業 科 目 名	看護とコミュニケーション論	担 当 教 官	大 沢 博		
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	水 曜 日	II 時 限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	選 択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	看護 コミュニケーション 事故 共感的理解				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	看護におけるコミュニケーションの重要性の理論的、実践的理解				
回	講 義 題 目	内 容			
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとは何か ・看護におけるコミュニケーションの重要性 ・コミュニケーションの失敗例の分析 ・正確なコミュニケーション達成の方法 ・傾聴と反応 ・カウンセリングにおけるコミュニケーション ・共感的理解 			
テキスト, 教材, 参考書	「吹雪は止む=ある精神障害者の治癒過程」 下村千秋 著				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 ビデオ				
成績評価の方法	レポート				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	経済学	担 当 教 官	坂 本 俊 造		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	金曜日	IV時限
単 位 , 必 ・ 選	単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	現実の経済動向に即してわかりやすく解説				
授業の達成目標及び期待される学習効果					
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>とかく経済学はつまらなくて退屈な授業と思われがちです。経済を理解するには歴史、制度、事実、理論についてバランスのとれた知識が必要と思いますが、経済学の講義ではとかく理論に片寄りがちなため、退屈な思いをするわけです。</p> <p>1年生を対象に前期、10数時間の授業で経済学の大綱をカバーすることは不可能と思います。そこで、前年度の経験を生かして、今年度は、あくまで現実の動きに即して歴史、制度、理論を判りやすく解説します。</p> <p>例えば、現在1ドル120円近辺の円相場は時々刻々変動していますが、そもそも為替相場を規程する要因については理論の分野ですし、同時に戦後のIMFシステムの歴史、制度をとりあげることになります。</p> <p>また、経済摩擦という事実ををとりあげれば、当然、何故貿易が成り立つのかという理論や日米経済摩擦の歴史にも言及しなければなりません。</p> <p>以上の基本認識の下で、昨年の経験から教科書をもっとくだけた図解中心のものに変更します。</p>			
テキスト, 教材, 参考書	テキスト:大和総研「経済のしくみ」 日本実業出版社 1,262円				
成績評価の方法	前期末に一応試験をする予定				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	世界の医療と福祉	担 当 教 官	佐 藤 進		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前期	土曜日	I、II時限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択			
授 業 の キ ー ワ ー ド	主要欧米諸国・発展途上国の保健医療と福祉の動向				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	世界における保健医療と福祉の現状から、日本の現状と問題を、保健医療専門職の役割と在り方考えたい。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	人間の社会と生活から世界の保健医療と福祉のかかわりをみて	世界の国々における保健医療と福祉とのかかわり ―分離とその連携をみて― 科目概要、授業の進め方、評価方法、参考書などオリエンテーション			
2	世界の国々の経済発展と「生活」の貧困と保健医療と福祉問題をみる	人間のくらしにみる生活諸事故と人間生活を不安している「貧困」原因としての疾病とその治療としての保健医療と福祉問題について			
3	生活と「貧困」と生活維持原則とそれぞれの対応	発展国と発展途上国にみる生活問題と「貧困」への対応として生活維持原則(私的扶養システム)とその保健医療と福祉			
4	世界の国々をみる人間の<生存の権利>とその公的な保障	世界の国々にみる人間の<生存の権利>保障<快適生活>保障の思想 一人権尊重の一つの問題と公的な生活保障(社会的扶養システム)体制			
5	生存の権利と<保健医療>保障と<福祉サービス>保障とは	<生存の権利>における<保健医療>保障と<福祉サービス保障>と<生活環境保全・整備保障>(日本の憲法25条(生存権)とは)			
6	生存の権利と<保健医療>保障<福祉サービス>とは	<保健医療>保障と<福祉サービス保障>との意味とその違いとそれらをめぐる世界各国の制度政策をめぐって			
7	世界における<保健医療>制度の現状―主要欧米国と発展途上国との―その問題(I)	世界における<保健医療>制度はどのような現状であるか ―主要欧米諸国と発展途上国の― とその問題とは			
8	世界における<保健医療>制度の現状(II)―日本の保健医療制度とその現状と課題をみる―	世界の動向をみた上で、日本の保健医療システムを概観し、その現状と課題を考える			
9	世界における<福祉制度>の現状(I)	世界における人間の生活と<福祉サービス>制度はどのような状況にあるか、―保健医療と対比して福祉サービス制度の現状と問題を学ぶ。			
10	世界における<福祉制度>の現状(II)	世界の福祉サービス制度の現状をみた上で、日本の<福祉制度>を概要し、その現状の問題を考える。			
11	高齢社会、少子社会と<介護保障>(I)	日本・世界における高齢社会、少子社会の到来に対応して<介護保障>をめぐる制度や政策を学ぶ。			
12	高齢社会、少子社会と<介護保険>(II)	日本における<介護保険>制度における<保健医療>と<福祉>サービス提供のシステムを学ぶ。			
13	世界の<保健医療>と<福祉>総括討議	(スライドを使用する予定)			
14	世界の<保健医療>と<福祉>総括討議	(スライドを使用する予定)			
テキスト, 教材, 参考書	講義時に紹介したい。				
成績 評 価 の 方 法	試験実施か、レポート提出か検討。				
メ ッ セ ー ジ	学生との対話講義をベースに、教員の一方通行講義は避けたい。 学生諸君の対話を通じて、そのリクエストと質疑に答える講義をしたい。				

授 業 科 目 名	英語 I (基礎英語・医学英語)	担 当 教 官	柏 木 恵 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・後期	木曜日	Ⅱ、Ⅲ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	基礎的な英語力、医療・看護における英語				
授業の達成目標及び期待される学習効果	1 基礎的な英語力の向上 2 医療・看護の場面において使われる英語の簡単な専門用語や表現の学習				
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>現在、社会の様々な分野で「国際化」が叫ばれている状況であるが、医療の分野も例外ではなく、国際化、それに伴う外国語(特に「国際語」としての英語)の必要性はますます高まってきている。この授業においては、医療、看護の様々な場面を想定した英文を題材とし、基礎的な英語力の向上を図りながら、医療・看護の簡単な専門用語や、関連する英語表現を学んでいく。</p>			
テキスト, 教材, 参考書	Graded Reading and Conversation Series for Nurses, Grade 2 著者: Hubert.H.Setzler, Jr., Cherie A. Hale, 鈴木伝次 医学書院 ¥1,236				
成績評価の方法	出席状況、前・後期末試験、小テストによる総合評価				
メ ッ セ ー ジ	授業のとき、毎回、英和辞典を持ってきてください。				

授 業 科 目 名	英語Ⅱ(オーラルイングリッシュ)	担 当 教 官	澤 田 只 夫		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	月曜日 水曜日	I、II時限 II、III時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果					
回	講 義 題 目	内 容			
		*検討中			
	テキスト, 教材, 参考書				
	成績評価の方法				
	メ ッ セ ー ジ				

授 業 科 目 名	英語Ⅲ(外書購読)	担 当 教 官	柏 木 恵 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・後期	木曜日	IV時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	英語力の向上、医療・看護の在り方				
授業の達成目標及び期待される学習効果	1 英語力の向上 2 今後の医療、看護の在り方を考える				
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>現代社会において、医療技術は日々進歩し、健康に注意を払う人々も非常に増えている。しかし、便利で豊かな生活を営む反面、様々なストレスや自然環境の汚染、化学物質などにさらされ、現代人は心身ともに病んだ状態に陥りやすくなっている。この授業では、英語力をより向上させるとともに、医療や健康に関する最近の話題を扱った文章を読むことによって、これからの医療・看護の在り方を考えるきっかけにもしていく。</p>			
テキスト, 教材, 参考書	テキスト Life and Health Care 著者:渡邊容子、柴山森二郎、Mark Caprio 三修社 ¥1,751				
成績評価の方法	出席状況、前・後期末試験、小テストによる総合評価				
メ ッ セ ー ジ	授業のとき、毎回、英和辞典を持ってきてください。				

授 業 科 目 名	医 学 概 論	担 当 教 官	岡 田 了 三		
対 象 学 生	1 学 年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期	木 曜 日	IV 時 限
単 位	1 単 位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	必 修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	医学とその関連領域の概観				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	医科学、医術、疾病の診断、治療・予防、リハビリテーション、看護学と医学の関連、医学周辺の各種職業、福祉について考える。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	医学と医科学	医学と看護学、医学内の分科、基礎医学と臨床医学			
2	医学の周辺	医療関係職、医療形態、医療行政、医療産業			
3	医の倫理	医道、仁術、生涯学習、秘密厳守、ヒポクラテスの誓い			
4	行政と医療	厚生省の業務、衛生統計、保険医療			
5	医学の歴史	中世から近世までの主な生物学的発見と医学への応用			
6	現代の医学	20世紀の医学の進歩、現状の問題点			
7	疾病の診断	病歴の聴取、診察、理学所見、病状、症候、症候群			
8	病歴の記載	POMR、SOAP、医学情報の整理と公開			
9	臨床検査(1)	一般、特殊、非観血的、観血的			
10	臨床検査(2)	検査成績の読み方、正常と異常			
11	診断名、鑑別診断	機能、形態、病因診断、合併症、誘因、素因			
12	治療(1)	原因療法、対症療法、予防対策、非薬物療法、観血療法			
13	治療(2)	薬物療法、主な薬品名と使用法			
14	リハビリテーション医学	理学療法、作業療法、言語療法、精神療法、福祉			
テキスト, 教材, 参考書	テキストは特に指定しない。講義毎に講義概要プリントを配布。参考書は標準看護学講座・医学概論(金原出版)、系統看護学講座・医学概論(医学書院)など。				
成績評価の方法	ペーパーテスト(病気に対する常識も要求される)				
メ ッ セ ー ジ	講義題目毎に複数の参考書を用いて自習すること。				

授 業 科 目 名	病 理 学	担 当 教 官	岡 田 了 三		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	木曜日	IV時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	病因の理解				
授業のキーワード目標及び期待される学習効果	疾患の形態学、病因と表現型の多様性、病変の可逆性・非可逆性、疾病時に体内に発生する病変を具体的に理解すること。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	病理学の方法論	病理解剖、外科標本、生検標本:組織学的診断法			
2	病因論(病理概論)	炎症、変性、壊死、腫瘍、循環障害			
3	循環器疾患(1)	動脈硬化、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、先天性心奇形			
4	循環器疾患(2)	高血圧、不整脈、大動脈瘤、動脈炎、静脈炎			
5	呼吸器疾患	鼻炎、上気道炎、気管支炎、肺炎、気管支喘息、肺結核症、肺癌、自然気胸			
6	消化管疾患	口内炎、食道癌、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、腸炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、結腸癌、イレウス、虫垂炎、痔疾患			
7	肝・胆道・膵疾患	肝炎、肝硬変、肝癌、胆のう炎、胆石症、膵炎、膵癌、糖尿病			
8	泌尿・生殖器疾患	糸球体腎炎、腎盂腎炎、ネフローゼ、腎硬化症、尿路結石、膀胱炎、前立腺腫瘍、乳腺癌、卵巣腫瘍、子宮筋腫、子宮癌、性感染症			
9	内分泌・代謝系疾患	下垂体腺腫、甲状腺炎、甲状腺癌、副腎腫瘍、アミロイドーシス、痛風、高脂血症			
10	神経系疾患	脳出血、脳梗塞、髄膜・脳炎、パーキンソン病、アルツハイマー病、多発性硬化症、脳腫瘍、神経線維腫			
11	血液・リンパ系疾患	貧血、白血病、骨髄腫、リンパ節炎、リンパ腫、血友病、紫斑病、DIC			
12	運動器疾患	骨折、骨粗鬆症、骨髄炎、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、スポーツ障害			
	皮膚疾患・感覚器疾患	じんま疹、皮膚癌、中耳炎、白内障、緑内障、角膜炎			
13	免疫疾患	免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患(膠原病と類縁疾患)、川崎病			
14	奇形と遺伝子疾患	レックリングハウゼン病、マルファン病、網膜色素変性、進行性筋ジストロフィー、トリソミー(ダウン症)、ターナー病、ADA欠損症、ミトコンドリア病、サリドマイド症、奇形症候群、胎児感染症、素因の遺伝			
テキスト, 教材, 参考書	テキストは特に指定しない。講義毎に講義概要プリントを配布。参考書は標準看護学講座・病理学(金原出版)、系統看護学講座・病理学(医学書院)など				
成績評価の方法	ペーパーテスト(記述の正誤判定が要求される)。				
メ ッ セ ー ジ	講義題目毎に複数の参考書を用いて自習・復習すること。				

授 業 科 目 名	病態学	担 当 教 官	吾妻正美		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	通年	木曜日	Ⅲ時限
単 位 , 必 ・ 選	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	生物学・解剖学・生理学・生化学・微生物学・病理学・薬理学など初学年で学ばれた基礎科学を総合して臨床医学にどのように結び付けてゆくか考えてみましょう。				
回	講 義 題 目	内 容			
	1)脳神経系(5) * 2)呼吸器系(3) 3)循環器系(4) 4)腎・泌尿器系(2) 5)消化器系(5) (肝・膵を含む) 6)内分泌・代謝系(2) 7)血液・腫瘍系(2) 8)感染・免疫系(2) 9)骨・関節系(2) 10)感覚器・皮膚系(2) 11)補講(残り時間)	意識障害、運動・知覚障害、知能障害 呼吸異常、呼吸不全 血圧異常、不整脈、心不全 排尿障害、腎不全 嚥下障害、急性腹症、便通異常、消化管出血、黄疸 糖・脂質代謝異常、内分泌異常 造血異常、出血傾向、腫瘍 免疫異常、アレルギー 転倒(骨折)関節症 視力・聴力障害、全身疾患と皮膚 *()内 数字は 講義の予定回数			
テキスト, 教材, 参考書	①McPhee SJ ,et al: Pathophysiology of Disease An Introduction to Clinical Medicine ②Merck Manual of GERIATRICS,2nd ed.を参考にします。テキストは特に定めません。				
成績評価の方法	評価法は考慮中				
メ ッ セ ー ジ	講義ですが、スライドなども出来るだけ併用してプリントも作成・配布します。しかし個々の疾患について全てを講義することは不可能です。重要疾患が主になります。				

回	講 義 題 目	内 容
		<p>McPhee SJ,Lingappa VR, Ganong WF,Lange JD: Pathophysiology of Disease An Introduction to Clonical Medicine, 2nd ed. 疾患の病態生理学——臨床医学入門</p> <ol style="list-style-type: none">1)Genetic Disease 遺伝性疾患 *2)Neoplasia 新生物3)Immune System Disorders 免疫異常4)Infectious Disease 感染症5)Blood Disorders 血液異常6)Nervous System Disorders 神経系異常7)Pulmonary Disease 肺疾患8)Cardiovascular Disease 心血管疾患9)Renal Disease 腎疾患10)Gastrointestinal Disease 胃腸疾患11)Liver Disease 肝疾患12)Pancreas Disease 膵疾患13)Endocrine System Disorders 内分泌異常14)Reproductive Tract Disorders 生殖器異常15)Skin Disease 皮膚疾患 <p style="text-align: center;">*項目と順序は 原著より変更してある。</p>

授 業 科 目 名	微生物学	担 当 教 官	澤 田 只 夫		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	火曜日 水曜日	I時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	感染症の原因となっている病原微生物にはどのようなものがあるのか理解し予防と治療に必要な基礎知識を習得する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1		病原微生物学の成り立ち			
2		病原微生物学の形態と構造及びその生理			
3					
4		滅菌と消毒			
5		化学療法と伝染病の予防			
6					
7		感染の成立、免疫とワクチン			
~					
11					
12		グラム陽性球菌と杆菌			
13					
14		グラム陰性球菌と杆菌			
~					
16					
17		スピロヘータ、カンピロバクター、ヘリコバクター、リケッチア、クラミジア、			
18		マイコプラズマ			
19		STD、食中毒、院内感染			
20					
21		ウイルスの特徴			
22					
23		DNAウイルス			
~					
24					
26		真菌学			
27					
28		原虫学			
29		まとめ			
30					
テキスト, 教材, 参考書	系統的看護学講座「微生物学」医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心で進める				
成績評価の方法	中間及び期末の筆記試験により評価				
メ ッ セ ー ジ	講義の予定範囲を予習し、また講義後には、予習により十分理解するように心掛ける。				

授 業 科 目 名	薬理学	担 当 教 官	澤 田 孝 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	木曜日	Ⅱ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	薬物使用の長所と短所				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	薬物使用における生体への影響、基本的な知識を習得する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1		薬理学とは何か、薬の歴史			
2					
3		薬理作用、薬効に影響を及ぼす要因			
4					
5		薬の有害作用、薬の適応			
6					
7		化学療法薬、抗生物質、サルファ剤			
8					
9		がんの化学療法、抗ウイルス薬、免疫疾患に対する薬物、消毒薬			
10		中枢神経作用薬			
11		(Ⅰ)全身麻酔薬、催眠薬、抗不安剤			
12					
13		中枢神経作用薬			
14		(Ⅱ)抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群			
15		中枢神経作用薬			
16		(Ⅲ)抗てんかん薬、麻薬性鎮痛剤			
17		炎症とアレルギーの薬理、痛風治療薬			
18					
19		末梢神経系に作用する薬物			
20					
21		心臓・血管系に作用する薬物			
22					
23		呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			
24					
25		物質代謝に作用する薬物			
26					
27		生物学的製剤、薬物中毒とその処理			
28					
29		嗜好品の薬理、その他			
30					
テキスト, 教材, 参考書	系統的看護学講座「薬理学」医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心におこなう。 ビデオの活用				
成績評価の方法	中間及び期末の考査、ホップテストなどで評価する。				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	担 当 教 官	坂 本 雅 昭		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	火 曜 日	Ⅲ時限
単 位	1単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択			
授 業 の キ ー ワ ー ド	リハビリテーション、障害、地域、社会復帰、チーム医療				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	「リハビリテーション」の本来の意味を知るために、リハビリテーションの理念、歴史、対象、方法、実際の流れ、医学における位置づけなどについて解説する。また、リハビリテーションの対象となる「障害」について解説する。 各論として、脳血管障害のリハビリテーション、整形外科的疾患に対するリハビリテーション、障害者スポーツなどについても紹介する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	オリエンテーション	(授業形態:講義)リハビリテーションに関するアンケート			
2	総論1	(授業形態:講義)リハビリテーションの歴史			
3	総論2	(授業形態:講義)リハビリテーションの定義			
4	総論3	(授業形態:講義)リハビリテーションの対象、障害論			
5	総論4	(授業形態:講義)リハビリテーションの方法(メンバー、評価)			
6	総論5	(授業形態:講義)リハビリテーションの流れ			
7	総論6	(授業形態:講義)リハビリテーション医学			
8	総論7	(授業形態:講義)地域リハビリテーション			
9	各論1	(授業形態:講義)リハビリテーションの実際(脳血管障害)			
10	各論2	(授業形態:講義)リハビリテーションの実際(脳血管障害)			
11	各論3	(授業形態:講義)リハビリテーションの実際(脊髄損傷)			
12	各論4	(授業形態:講義)リハビリテーションの実際(切断)			
13	各論5	(授業形態:講義)リハビリテーションの実際(障害者スポーツ)			
14	まとめ	(授業形態:講義)全体的質疑及びテスト			
テキスト, 教材, 参考書	テキスト:特に定めない。 参考書:目で見えるリハビリテーション医学:上田 敏:東京大学出版 リハビリテーション:砂原 茂一:岩波新書				
成 績 評 価 の 方 法	レポート、最終授業時にテスト				
メ ッ セ ー ジ	専門教養科目と考え、気楽に授業に参加してほしい。また、授業内容等で希望があれば遠慮せず伝えてほしい。				

授 業 科 目 名	救命救急医療	担 当 教 官	矢 嶋 和 江		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	木 曜 日	V 時 限
単 位	1単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	選 択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	プレホスピタルケア、チーム医療、MOF、災害サイクル、トラウマ				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	1. 救急医療における今日的課題、救急領域の実態と問題点について理解する。 2. 救急医療従事者として求められるものとして、医学的知識に裏付けされた判断力と技術、傷病者への看護面の配慮の重要性を認識する。 3. 救急医療はチーム医療であり、多くの職種との協調性が不可欠であることを理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	救急医療と看護	1) 救急医療の変遷と今日の課題について概説する。 2) 救急患者の特徴と、救急患者を取り巻く環境について理解する。 3) 救急看護の特性と求められる看護婦の役割を知る。			
2	救急救命処置と看護	1) 緊急時に用いられる医薬品の種類と期待する効果について学習する。 2) 全身管理に必要な手技とその管理 ①循環管理 ②体液管理(輸液と血液) 3) 緊急検査の内容と優先順位 4) 緊急手術への対応			
3					
4					
5	重篤な病態の把握と観察	1) 呼吸不全の病態と看護観察のポイント 2) 循環不全の病態と看護観察のポイント 3) 意識障害の病態と看護観察のポイント 4) 急性腹症の病態と看護観察のポイント 5) 消化管出血の病態と看護観察のポイント 6) DICの病態と看護観察のポイント 7) MOFの病態と看護観察のポイント 8) 不慮の事故に関わる全身状況と看護観察のポイントについて学ぶ。 9) 重症感染症の病態と看護観察のポイント			
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12	災害医療について	1) 災害医療と救急医療について理解する。 2) 災害看護 ・災害の種類と健康障害 ・大規模災害時の看護職の果たす役割 ・多死傷者対応とトリアージについて ・外傷後ストレス障害について(PTSD)理解する。			
13					
14	救急看護に関連する諸問題	1) 脳死に関連する問題 2) 救急医療における法律問題 ・看護事故の事例をもとに救急現場での医療過誤について考える。			
15	CPRの実技	希望者にはCPR初級認定資格を授与する(要・追加講習2日間)			
テキスト, 教材, 参考書	系統的看護学講座「救急看護学」・プリント VTR、参考文献随時提示				
成績評価の方法	ペーパーテスト、出席状況・演習等の総合評価による				
メ ッ セ ー ジ	予習復習は必ずする。授業中の疑問は進行の妨げにならない範囲で随時質問は受ける。ただし私語の多い学生には退室を命じることもある。				

授 業 科 目 名	看護学の基礎	担 当 教 官	梅 林 奎 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	火曜日	II時限
単 位	単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	人間と看護、健康と看護、社会と看護、看護婦(士)の役割、保健・医療・福祉サービス、看護の場				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	看護全般の概要を理解し、保健・医療・福祉サービスにおける看護の位置づけと看護の役割を認識する。このために、人間とは、健康とは、看護とは、環境とはの概念を学び、看護を実践するための基礎知識として看護の目的、対象、方法などを学ぶ。 専門職業人としての認識を持ち、資質を養う。 また、看護の歴史的変遷をととして看護の本質を学び、学生自ら看護観を構築していくための一助とする。				
授 業 回 数	授 業 内 容				
第 1 回	I 看護学を学ぶにあたって、保健・医療・福祉サービスにおける看護職への期待 看護教育過程と基礎看護学の位置づけ他				
第 2・3 回	II 看護の基盤としての人間関係・コミュニケーション				
第 4・5 回	III 看護活動の基本 1 人間・健康・看護 ①看護の対象としての人間 生物学的基礎、ライフサイクル、 発達課題、人間と欲求、人間と環境と適応、個人・家族と社会 ②人間と健康、健康の概念、健康観、健康の水準と看護・保健受診 行動・国民の健康状態 ③健康障害と心理、社会的変化、患者・家族と看護者との関係 ④患者と家族の理解と援助（臨床看護総論に委ねてもよい）				
第 6 回	2 看護の変遷と概念				
第 7 回	①看護の変遷				
第 8 回	a 看護の変遷を学ぶ意味				
第 9 回	b ナイチンゲール以前の看護(看護の起源・看護と宗教・看護と戦争) c ナイチンゲールと近代看護 d 日本の看護 e アメリカの看護・看護理論の発達 f 職業としての看護 g 看護教育 h 看護の専門化とこれからの看護 i 看護の国際協力				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座、基礎看護学1:医学書院 児玉香津子他、看護覚書:日本看護協会 出版会 湯槇ます他、看護の基本となるもの:日本看護協会出版会 OHP・VTR・プリント				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験及び課題レポート、平常考査で総合的に評価する。				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 回 数	授 業 内 容
第 10 回	②看護の概念
第 11 回	a 看護の定義 ナイチンゲール、ヘンダーソン他による定義
	b 看護の対象
	c 看護の役割と機能 看護の独自の機能と役割 看護の法的規定(保助看法による)
	③ 専門職としての看護職
	a 専門職の要件、看護の専門性
	b 専門職と倫理
第 12 回	3 看護の活動の概要
	① 看護活動が行われている場
	② 総合保健医療の中の看護
	a プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、 保健・医療・福祉サービスシステム
	b 保健・医療・福祉チームと看護チーム
第 13 回	4 看護の活動の展開
第 14 回	看護過程
	a 意義
	b 対象の把握
	c 看護問題の明確化
	d 看護の実施計画
	e 評価
第 15 回	IV 看護の管理
	1 看護の管理原則
	2 病院における看護管理
	3 看護行政、看護教育
	V 看護と研究
	(時間によっては研究に委ねる)

科学的思考としての看護過程
看護の方法論としての看護過程

授 業 科 目 名	看護理論の基礎	担 当 教 官	鹿 村 眞 理 子		
対 象 学 生	2学年(平成12年度より)	学期及び曜日・時限	前期・後期	一曜日	一時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	人間、看護、環境(社会)、健康				
授業の達成目標及び期待される学習効果	看護理論の基礎基礎を学ぶことにより、看護の本質を考える手がかりにする。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	看護理論とは	看護理論とは			
2	ナイチンゲール	フローレンス・ナイチンゲールの看護理論			
3	ヘンダーソン	バージニア・ヘンダーソンの看護理論			
4	ウイーデンバック	アーネスティン・ウイーデンバックの看護理論			
5	ペプロウ	ヒルデガード・E・ペプロウの看護理論			
6	ロジャース	マーサ・E・ロジャースの看護理論			
7	オレム	ドロセア・E・オレムの看護論			
8	ロイ	シスター・カリスト・ロイの看護理論			
9	レイニンガー	マドレイン・M・レイニンガーの看護理論			
10	グループ討議	看護理論を一つ選び、その枠組みと特徴についてグループ討議する。			
11	グループ討議	同上			
12	グループ討議	同上			
13	グループ討議	同上			
14	発表	グループ毎に発表する。			
15	発表	同上			
テキスト, 教材, 参考書	黒田裕子:やさしく学ぶ看護理論、日総研.				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及びグループ・ワーク、VTR使用				
成績評価の方法	レポート提出、筆記試験、出席状況				
メ ッ セ ー ジ	難しく考えずに、看護の先輩たちが何を言おうとしているのかを考えるきっかけにしてください。				

授 業 科 目 名	基礎看護技術 I	担 当 教 官	鹿 村 眞 理 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期	火曜日	IV、V時限
単 位 , 必 ・ 選	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	援助技術、健康と生活、看護ケア、患者－看護婦の役割モデル、コミュニケーション				
授業の達成目標及び期待される学習効果	人間の健康に関わる生活行動を理解し、健康の保持・増進および回復に役立つ基本的な援助を習得する。また援助の受け手と与え手の人間関係についての理論と方法を学ぶ。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	看護技術とは	看護技術とは			
2	環境	人間をとりまく環境を理解し、環境調整時における看護婦の役割を学ぶ。			
3	病床の整備	病床の意義・ベットメイキングの種類と方法などについて学ぶ。			
4	衣生活	衣生活の意義・リネン管理における看護婦の役割について学ぶ。			
5	コミュニケーション	コミュニケーションの技法と看護への適応について学ぶ。			
6	コミュニケーション	ロール・プレイングについて学習し、人間関係の疑似体験をする。			
7	清潔	皮膚粘膜の解剖・生理の知識を基に清潔の意義・種類・方法などについて学ぶ。対象の生活習慣を把握し、清潔の適切な援助方法を考える。			
8	清潔	全身清拭・部分浴・洗髪について演習し、相互評価する。			
9	清潔	口腔ケア・陰部ケアなどについて演習し、相互評価する。			
10	姿勢と体位	安楽な体位と動作の経済性を高める技術について学ぶ。			
11	姿勢と体位	姿勢と体位・移動技術について演習する。			
12	活動と休息	睡眠の生理を学び個人の睡眠習慣を把握する。睡眠と安息の援助方法を考える。レクリエーションおよび身体運動についても学ぶ。			
13	栄養と食事	栄養と食事の生理的意味を理解するとともに、対象の食生活習慣を把握する。食事の適切な援助方法について学ぶ。			
14	栄養と食事	さまざまな栄養法の実際について学ぶ。			
15	実技試験	実技試験			
テキスト, 教材, 参考書	薄井担子:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術、医学書院 池田明子訳:コミュニケーション、日本看護協会出版会. 北米看護診断協会:NANDA看護診断 定義と分類、医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及び演習、VTR使用				
成績評価の方法	レポート提出、実技試験、筆記試験、演習中の態度、出席状況				
メ ッ セ ー ジ	9月には基礎看護学実習 I があります。対象に接するために必要な基本的な看護技術を学んでおきましょう。				

授 業 科 目 名	基礎看護技術 II	担 当 教 官	鹿 村 眞 理 子 他		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	火曜日	IV、V時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	診療援助の技術、看護ケア、観察				
授業の達成目標及び期待される学習効果	対象をより専門的な目で把握するために必要な観察の技術および臨床看護に必要な診療の援助技術を習得する。さらに対象の生と死について学習する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	排泄	排泄の生理と観察法について学ぶ。個人の排泄パターンを知り、それが変調をきたした際の援助法について考える。			
2	排泄	排泄障害をきたした際の援助技術について学ぶ。			
3	排泄	排泄の援助技術(便尿器の与え方・浣腸・導尿等)について演習し、相互評価する。			
4	バイタルサインズ	診療時の看護婦の役割を学ぶ。観察の技術として重要なバイタルサインズ(体温・脈拍・心拍・血圧・呼吸等)の意義について学ぶ。			
5	バイタルサインズ	バイタルサインズの測定法について学ぶ。			
6	バイタルサインズ	バイタルサインズについて演習し、相互評価する。あわせて記録や評価のしかたについても学ぶ。			
7	電法	電法の基礎的知識と方法について学び、電法による皮膚温の変化についても演習する。			
8	吸引と吸入	吸引と吸入の方法と効果的な援助方法について学ぶ。			
9	身体各部の計測	身長・座高・体重・胸囲など身体機能の計測の方法について学ぶ。			
10	包帯	対象者に適した材料で的確な包帯を装着する技法を習得する。			
11	安全	危険の防止・感染予防・事故予防について学び、生命の尊さについて考える。			
12	与薬	薬物療法についての的確な知識と技術を習得し、看護婦の役割について学ぶ。			
13	与薬	輸液の準備と介助法、皮内注射・皮下注射・筋肉注射について演習する。			
14	検査	検査時における看護婦の役割について学ぶ。			
15	実技試験	実技試験			
テキスト, 教材, 参考書	薄井担子:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術、医学書院 北米看護診断協会:NANDA看護診断 定義と分類、医学書院				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及び演習、VTR使用				
成績評価の方法	レポート提出、実技試験、筆記試験、演習中の態度、出席状況				
メ ッ セ ー ジ	人に対して、“何かができる”という力を身につけることは素晴らしいことです。ここでしっかり技術を自分のものにしてください。				

授 業 科 目 名	基礎看護技術 III	担 当 教 官	鹿 村 眞 理 子 他		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期	火 曜 日	I 時 限
単 位	2単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	必 修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	カウンセリング、指導技術、観察、問題解決、看護過程、看護診断、記録				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	よりよい看護を実践するための観察および記録の方法について学ぶ。事例を通して基本的なアセスメント能力や観察能力を育成し、科学的問題解決法としての看護過程の展開の技術を習得する。さらに、専門家としての役割を担うために、看護管理、カウンセリング、指導技術についても学ぶ。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	カウンセリング	カウンセリングの看護における位置づけとその技法について学ぶ。			
2	死と看護	その人における死の意味と看護婦の役割について考える。			
3	指導技術	個別指導のプロセスとポイントについて学ぶ。			
4	指導技術	集団指導のプロセスとポイントについて学ぶ。			
5	観察	観察の技術、方法、用語について学ぶ。			
6	観察	観察の方法を事例を通して学ぶ。			
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意、記録の管理、報告等について学ぶ。			
8	記録	POSやフォーカスチャータリング等記録の実際について学ぶ。			
9	記録	プロセスレコードの方法を事例を通して学ぶ。			
10	看護過程	看護過程を学習する意義、構成要素、用語等について学ぶ。			
11	看護過程	情報の分析、アセスメント、看護問題の抽出(看護診断)、計画立案、実施、評価について学ぶ。			
12	看護過程	同上			
13	看護過程	事例を通して看護過程を展開する。			
14	看護過程	同上			
15	看護過程	同上			
テキスト, 教材, 参考書	薄井担子他:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術、医学書院 カルペニート:看護診断ハンドブック、医学書院. 古橋洋子:PONR・看護診断、日総研				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及び演習、VTR使用				
成績評価の方法	レポート提出、筆記試験、演習中の態度、出席状況				
メ ッ セ ー ジ	いよいよ看護学の核心に入ります。ここで学んだことが看護婦としての一生を左右するといっ てよいでしょう。難しいけれどやりがいもあります。				

授 業 科 目 名	臨床看護総論① －患者と家族の理解－ －継続看護－	担 当 教 官	梅 林 奎 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	木曜日 木曜日	Ⅱ、Ⅲ時限 Ⅱ、Ⅲ時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	患者と家族、生活、危機的状況、ストレスとコーピング、自己概念の変化、保健医療行動、病気の受容過程、コンプライアンスとノンコンプライアンス、セルフケア能力				
授業の達成目標及び期待される学習効果	健康上のニーズをもつ生活者と家族について理解を深める。 健康障害(病気)に伴う身体的、精神的、社会的変化と看護上の問題について理解を求め病気の受容過程及び健康問題解決のための援助について学ぶ。				
授 業 の キ ー ワ ー ド	総合保健医療(包括医療)と総合看護、継続看護、地域看護 プライマリヘルスケア、健康教育、患者教育				
授業の達成目標及び期待される学習効果	継続看護とはなにか、及びその意義、重要性を理解する。 継続看護の対象と場、看護の働きかけの方法を学ぶ。 継続看護における看護の役割について学び、これからの看護の方向性について考える。				
授 業 回 数	授 業 内 容				
第 1 回	健康上のニーズを持つ生活者(成人・老人・小児・母性)と家族				
第 2 回	・家族とは、家族周期と発達課題、健康上のニーズ、家族の役割と生活				
第 3 回	・各ライフステージにある人の健康問題と看護				
第 4 回	・人間にとっての病気・健康障害とは、患者・家族とは				
第 5 回					
第 6 回	健康障害に伴う身体的、精神的、社会的変化と看護				
第 7 回	・保健医療行動、危機的状況、ストレスとコーピング、自己概念の変化				
第 8 回	・病気の受容過程、コンプライアンスとノンコンプライアンス、セルフケア能力と健康教育				
第 9 回	・健康問題解決のための看護の役割と援助				
第 10 回	継続看護とは				
第 11 回	看護の意義、重要性				
第 12 回	総合保健医療(包括医療)と総合看護と継続看護 プライマリヘルスケアと継続看護、地域看護と継続看護				
第 12 回	看護の実践の場における継続看護―実践事例をとおして―				
第 13 回	継続看護における指導の意義、退院指導・訪問指導				
第 14 回	健康教育とセルフケア能力の育成				
第 15 回	継続看護における看護の役割とこれからの看護				
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座 基礎看護学3 医学書院 OHP・VTR・プリント				
成績評価の方法	定期試験及び課題レポート、平常考査で総合的に評価する。				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	臨床看護総論 ② －経過別看護－ －主要症状別看護－	担 当 教 官	梅 林 奎 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	木曜日	Ⅱ、Ⅲ時限
単 位 , 必 ・ 選	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	急性期、慢性期、回復期、終末期、リハビリテーション 疼痛、発熱、呼吸障害、循環障害、消化器・排泄障害、意識障害				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	健康障害の各経過の特徴と患者・家族のニーズと援助について学ぶ。 各主要症状と原因、観察の要点について理解する。 主要症状に伴う看護上の問題と看護について学ぶ。				
授 業 回 数	授 業 内 容				
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> 急性期、慢性期、回復期、終末期とは リハビリテーションとは 急性期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本 慢性期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本 				
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> 回復期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本 リハビリテーションと看護 終末期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本 				
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸障害と看護 呼吸障害とは、呼吸障害の原因、症状(呼吸困難、異常呼吸、咳嗽・喀痰) 観察の要点 看護上の問題と援助 				
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 循環障害と看護 循環障害とは、循環障害の原因、症状(不整脈、浮腫、動悸)と観察の要点、 看護上の問題と援助 				
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 消化器・排泄障害と看護 消化器障害とは、消化器障害の原因、症状(嘔気・嘔吐、下痢・便秘、吐血・下血)、 観察の要点、排泄障害(尿の生成・排出障害、尿量の異常)とは、失禁とは 看護上の問題と援助 				
第 6 回	同上				
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> 意識障害と看護 意識障害とは、意識障害の原因、意識障害のレベルの判定、観察の要点 看護上の問題と援助 				
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> 疼痛(胸痛、腹痛、関連痛等)とは、痛みのスケール、観察の要点 看護上の問題と援助 発熱とは、観察の要点 看護上の問題と援助 				
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座 基礎看護学3 臨床看護総論、医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 レポート				
メ ッ セ ー ジ					

回	講 義 題 目	内 容
	◎治療・処置を受ける患者の看護	
	◎医療用機器の原理と実際	
9	安静療法	「コンプライアンス」とは 安静とは、安静の効果・弊害とその看護
10	食事療法	食事療法とは、病院の食事、食事療法を必要とする患者の特徴、 看護;アセスメントのポイント、自己管理にむけての援助のポイント
	薬物療法	薬物療法とは、その意義と目的、専門職者の役割、薬物に影響を与える因子、 患者のコンプライアンスを高めるための援助
11	輸液療法	輸液療法とは、その目的 看護;アセスメントのポイント、施行時の援助のポイント
12	手術療法	手術療法とは、術前の患者ケアのポイント、術中の看護者の役割、術後の患者ケ アのポイント
	集中治療	集中治療とは、ICUの環境、患者の特徴、援助のポイントと看護者の役割
13	救急法	救急医療・救急法とは、救急状況にある患者の把握、 二次救命処置A～I、看護者の役割
	創傷処置	創傷とは、創傷の治り方、ドレッシング法の種類、看護 褥創とは、発生要因と好発部位、褥創の分類とその程度にあわせた処置の方法
	人工臓器	人工臓器とは、その種類、人工臓器をつけている患者の問題点とその看護
14	医療用機器	ME機器とは、基礎知識、取り扱い上の注意点
15		ME機器使用時の看護、代表的な機器の原理と構造

授 業 科 目 名	在宅看護論の基礎	担 当 教 官	矢 島 ま さ え		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	通年	金曜日	Ⅱ時限
単 位 , 必 ・ 選	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	在宅看護の歴史、在宅看護の現状、介護、自己決定				
授業の達成目標及び期待される学習効果	目標 学習効果	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の中での在宅看護の位置づけ理解する。 ・在宅看護の歴史を理解する。 ・在宅看護が求められる社会的背景を理解する。 ・在宅看護の目的と役割を理解する。 在宅看護に対する個人及び社会の様々な要請を学ぶことにより、在宅看護のあり方についての問題意識を持ち、対象の生活史やその家庭の姿を理解して必要な看護が提供できる。			
回	講 義 題 目	内 容			
1	導入	本科目の概要、達成目標、授業の進め方、評価、参考書などについて説明する。			
2	地域看護と在宅看護	看護の中での在宅看護の位置づけを明確にする。			
3	在宅ケアと在宅看護	在宅ケアの中での在宅看護の役割を明確にする。			
4	在宅看護の歴史 1 欧米	欧米における在宅療養者に対する看護活動の歴史を概観する。			
5	在宅看護の歴史 2 日本	日本における在宅療養者に対する看護活動の歴史を概観する。			
6	在宅看護に関わる現状 1 高齢化現象	我が国の急速な高齢化社会の到来について、人口の推移の面から概説する。			
7	在宅看護に関わる現状 2 高齢化現象	我が国の急速な高齢化社会の到来について、疾病構造及び医療経済の面から概説する。			
8	在宅看護に関わる現状 3 家族構成及び扶養意識	我が国の家族構成の変化、扶養意識の変化、女性の社会進出と就労意識の変化について解説する。			
9	在宅看護に関わる現状 4 高齢者保健・医療・福祉施策の概要	我が国の高齢者保健・医療・福祉施策の歴史的推移と各期の課題について解説する。			
10	在宅看護に関わる現状 5 高齢者保健・医療・福祉施策の概要	我が国の高齢者保健・医療・福祉施策の現状と今後の展望について解説する。			
11	在宅看護に関わる現状 6 高齢者保健・医療・福祉施策の概要	同上			
12	在宅看護に関わる現状 7 要介護老人と家族介護の実態	我が国の要介護老人と家族介護の実態について概説する。			
13	在宅看護を提供する場 1 行政・医療機関が行う訪問看護	行政及び医療期間が行う訪問看護活動の法的根拠と特徴について解説する。			
テキスト, 教材, 参考書	在宅看護論:杉本正子、眞船拓子 広川書店				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、演習、グループワーク				
成績評価の方法	筆記試験				
メ ッ セ ー ジ	在宅療養者を取り巻く環境と在宅看護活動を概観します。積極的な学習を期待します。				

回	講義題目	内 容
14	在宅看護を提供する場 2 訪問看護ステーション・民間等が行う訪問看護	老人訪問看護看護ステーション、訪問看護ステーション及び民間サービス等が行う訪問看護活動の法的根拠と特徴について解説する。
15	在宅における看護の継続性	地域における看護の継続性について対象のライフサイクル、疾病の自然史、看護提供者側の視点から解説する。また、在宅療養における外来看護の役割について解説する。
16	在宅における看護の継続性	同上
17	看護と介護	看護と介護それぞれの言葉の意味を明確にし、それぞれの範疇や連携の方向性について考える。
18	在宅看護における面接と相談	在宅看護における面接と相談の特徴と留意点について解説する。
19	在宅看護における面接と相談	同上
20	在宅療養を可能にする条件	在宅療養を可能にする当事者や環境面の条件整備について解説する。
21	施設看護と在宅看護	在宅看護の特徴を施設看護との比較により捉える。
22	施設看護と在宅看護	同上
23	在宅看護の基本	在宅看護の機能、対象について解説する。
24	在宅看護の基本	在宅看護の展開と評価について初回訪問を中心に概説する。
25	在宅看護開始までの流れ	入院患者を例に、退院準備から在宅看護を開始するまでの患者・介護者への対応、関係者間の調整、諸手続き等の流れと、看護上のポイントについて概説する。
26	在宅療養者の権利保障 ノーマライゼーションの実現	障害者のノーマライゼーションについて、身近な環境を題材に考える。
27	在宅療養者の権利保障 ノーマライゼーションの実現	同上
28	在宅療養者の権利保障 プライバシー保護、専門職としての責任	在宅看護における秘密保守、及び、在宅療養者の権利を擁護するための専門職としての責任について述べる。

授 業 科 目 名	在宅看護活動論 I	担 当 教 官	矢 島 ま さ え		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	月曜日 金曜日	Ⅲ、Ⅳ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	看護過程、家族、他機関・他職種との連携、ケアマネジメント				
授業の達成目標及び期待される学習効果	目標 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護を展開する上で必要な知識を習得する。 ・家族の実態と家族支援の方法を理解する。 ・在宅ケアにおける他機関・他職種との連携の具体的方法を理解する。 学習効果 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護を展開する上で必要な知識を習得し、自ら看護を計画・実施できる。 				
回	講 義 題 目	内 容			
1	在宅療養者と家族 1 家族機能と変遷	家族の形態と機能の歴史の変遷について解説する。			
2	在宅療養者と家族 2 現代日本の家族	現代日本の家族の問題と今後の予測について、諸外国との対比を踏まえて考察する。			
3	在宅療養者と家族 3 家族をとらえる視点	在宅看護の対象となる家族を把握、理解すること、彼らのこれまでの生活、自立、QOLを尊重する視点について解説する。			
4	在宅療養者と家族 4 介護の実態と家族支援	家族による介護の現状、介護者と他の家族の協力や機能分担、社会サービスの導入に係る問題を紹介し、家族支援の方法について解説する。			
5	在宅療養者と家族 5 介護の実態と家族支援	同上			
6	在宅療養者と家族 6 虐待の実態と家族支援	在宅療養者への虐待の実態を紹介し、被虐待者及び虐待者への支援について解説する。			
7	在宅療養者と家族 7 虐待の実態と家族支援	同上			
8	在宅看護の場の構造	在宅療養の可否を決定する在宅療養者の生活の構造、障害の程度による必要介護量と家族の介護力の関係性について解説する。			
9	訪問看護過程の展開 1 在宅看護過程に関わる現状	在宅看護における看護過程に関わる状況、家族単位のアセスメント、在宅ケアプランの中での看護計画の位置づけについて解説する。			
10	訪問看護過程の展開 2 アセスメント	初回訪問において療養状況・介護状況を把握する視点について解説する。			
11	訪問看護過程の展開 3 アセスメント	在宅看護において収集すべき基本的な情報の項目、内容及び分析・評価について解説する。			
12	訪問看護過程の展開 4 アセスメント	同上			
13	訪問看護過程の展開 5 看護計画の立案、実施	看護計画を立案し、看護の展開に結びつける方法について解説する。			
14	訪問看護過程の展開 6 アセスメント				
テキスト, 教材, 参考書	テキスト 参考書	在宅看護論:杉本正子、眞船拓子 廣川書店 看護六法			
成績評価の方法	筆記試験				
メ ッ セ ー ジ	「在宅看護論の基礎」を発展させ、在宅療養者をめぐる家族や社会の構造を理解するとともに、在宅看護活動の基本的な展開方法を学びます。学生の積極的な学習を期待します。				

回	講義題目	内 容
15	在宅看護に関わる法規	保健婦助産婦看護婦法、医療法、老人保健法、地域保健法、精神保健福祉法等在宅看護の業務内容に関わる法規について解説する。
16	在宅看護に関わる法規	同上
17	在宅看護に関わる経済的側面	在宅療養における診療報酬の体系と特徴、医療費以外の経済負担の実態、介護保険導入による経済的影響の予測について解説する。
18	在宅ケアに関わる機関 1	在宅ケアに関わる保健・医療・福祉関係各機関の法的・社会的位置づけ、機能、連携の方法性について解説する。
19	在宅ケアに関わる機関 2	同上
20	在宅ケアに関わる職種 1	在宅ケアに関わる保健・医療・福祉関係各職種の法的、社会的位置づけ、機能、連携の方法性について解説する。
21	在宅ケアに関わる職種 2	同上
22	在宅ケアシステム 1	在宅ケアに関わる社会資源とシステムについて紹介し、また、今後のシステム構築・充実に向けた様々な地域の動きを紹介する。
23	在宅ケアシステム 2	同上
24	在宅ケアプランと在宅ケアチーム 1	在宅ケアプランの位置づけと展開過程について概説する。また、在宅ケアチームによるカンファレンスの実態と運営上のポイントについて解説する。
25	在宅ケアプランと在宅ケアチーム 2	同上
26	ケアマネジャーの役割 1	ケアマネジャーの法的、社会的位置づけ、機能、在宅ケアチームの中での役割について解説する。
27	ケアマネジャーの役割 2	ケアマネージメントの各方式を紹介する。
28	介護保険法と今後の在宅看護	介護保険法の中の在宅看護の位置づけについて解説し、介護保険法をふまえて看護職がなすべきことについて考える。

授 業 科 目 名	在宅看護活動論 II		担 当 教 官	矢 島 ま さ え		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	金曜日 月曜日	IV時限	
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修			
授 業 の キ ー ワ ード	在宅看護技術、生活援助、症状別看護、家族支援					
授業の達成目標及び期待される学習効果	目標	在宅看護に必要な基本的技術を習得し、状況に応じて看護技術を工夫、実践できる能力を身につける。				
	学習効果	在宅看護の現場で行われる頻度の高い看護技術について、演習により技術を習得するとともに要点を理解し、現場の実態に即した応用ができる。				
回	講 義 題 目	内 容				
1	訪問看護の準備	訪問看護に出るときの必要物品、服装、初回訪問時に利用者に伝えることについて学ぶ。				
2	バイタルサインチェックと病状観察	バイタルサインチェック、病状観察その他の情報収集について解説と演習を行う。				
3	住生活の援助 1	在宅療養者の希望、生活スタイルを尊重し、家庭の資源等を活用しながら安全、快適、清潔、介護の効率などの条件を満たす環境整備について解説し、演習を行う。また、在宅療養で使用頻度の高い介護機器を紹介する。				
4	住生活の援助 2	同上				
5	衣生活の援助	療養者の身体状況、生活スタイルに応じた衣類、履物、寝具等の機能、素材を紹介し、衣類、寝具交換の演習を行う。				
6	清潔の援助 1	在宅で行う清拭、おむつ交換、陰部洗浄の留意点、家族への指導のポイントを解説し、演習を行う。				
7	清潔の援助 2	在宅で行う足浴、手浴、入浴介助の留意点、家族への指導のポイントを解説し、演習を行う。				
8	清潔の援助 3	在宅で行う洗髪、整髪等の留意点と家族への指導のポイントを解説し、演習を行う。				
9	清潔の援助 4	在宅で行うひげ剃り、爪切り、口腔の清潔の留意点と家族への指導のポイントを解説し、演習を行う。				
10	食生活の援助 1	在宅療養者の全身状態、咀嚼・嚥下機能、手指の機能などに応じた食品の形状、食事の形態と、必要な器具や食事環境の整備について解説し、食事介助の演習を行う。また、障害者が調理する場合の食品の入手、調理方法、調理器具、調理場の環境等の工夫について学ぶ。				
11	食生活の援助 2	同上				
12	服薬管理、受診の援助	服薬管理の技術、薬効と副作用の観察、家族への指導について解説する。また、在宅療養における受診とその援助について解説する。				
テキスト, 教材, 参考書	在宅看護論:杉本正子、眞船拓子 廣川書店					
成績評価の方法	レポート					
メ ッ セ ー ジ	在宅看護を実際に展開するための基礎的な技術を学びます。学生の積極的な参加を期待します。					

回	講義題目	内容
13	在宅療養者とリハビリテーション	在宅療養者のリハビリテーションの特徴と援助について解説する。
14	特殊な技術を使う在宅看護2	同上
15	悪性腫瘍患者の看護	在宅療養をする悪性腫瘍患者の看護について解説する。
16	脳血管疾患患者の看護 1	在宅療養をする脳血管疾患患者、寝たきり老人の日常生活と看護について解説する。
17	脳血管疾患患者の看護 2	同上
18	痴呆の看護	痴呆の種類と症状、治療、家族の対応方法、看護について解説する。
19	難病患者の看護 1	主な難病の疾患の進行・転帰、症状、治療、看護について解説する。
20	難病患者の看護 2	神経難病患者の日常生活と看護について解説する。
21	身体障害者の看護	身体障害者の日常生活と看護について解説する。
22	感染症の看護 1	結核、肺炎、MRSA、尿路感染、出血性大腸炎、エイズ、B型肝炎などの在宅看護で関わる感染症について、観察・看護の要点、患者及び医療従事者の感染予防の方法を学ぶ。
23	感染症の看護 2	同上
24	急変時の看護	急変時の看護、連絡調整、家族支援について解説する。
25	終末期の看護 1	終末期の看護、家族支援について解説する。
26	終末期の看護 2	同上
27	ケアマネージメントの展開過程	ケアマネージメントの展開過程
28	ケアマネージメントの評価	ケアマネージメントの評価

授 業 科 目 名	在宅看護特講(地域看護学)	担 当 教 官	矢 島 ま さ え		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	Ⅱ時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	地域看護、保健所、市町村、関係機関の連携				
授業の達成目標及び期待される学習効果	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会において住民の健康がどのように守られているかを学び、総合保健医療における看護の役割を理解する。 ・地域看護の対象はあらゆるレベルの人々であることを学ぶ。 ・対象の持つ特殊性に適した活動形態を理解する。 ・関係機関との連携、地域の社会資源とそれらを調整する必要性を理解する。 ・地区活動の一連の活動過程を理解する。 <p>学習効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域看護がどのように展開されているかを知ることにより、対象の生活する地域的背景を深く理解し、継続看護に必要な知識を得られる。 ・総合保健医療の中での看護の役割を理解し、それぞれの立場で看護を展開できる。 ・地域看護で用いられる個別指導、集団指導の技術を学び、患者指導に活用できる。 				
回	講 義 題 目	内 容			
1	地域看護の概念・歴史的あゆみ	地域看護の概念、目的、対象、活動の場、活動の手段について概説する。また、諸外国での地域看護活動の起源、日本における地域看護活動の成り立ちと発展、法的位置づけ・教育制度の変遷について解説する。			
2	地域看護活動の展開	地域看護活動における情報収集と対象集団の健康状態の把握、アセスメント、目標設定、活動計画、実施、評価、フィードバックの一連の活動過程を解説する。			
3	職域別地域看護活動 1	保健所、市町村、病院、産業、学校における保健活動の基本的な考え方と活動の実際について解説する。			
4	職域別地域看護活動 2	同上			
5	活動の実際 個別指導	保健指導の具体的手法のうち、個別指導の家庭訪問、健康相談、電話相談の特徴と基本的技術について解説する。			
6	活動の実際 集団指導	保健指導の具体的手法のうち、集団指導の健康教育、地区組織活動の特徴と基本的技術について解説する。			
7	現状の地域看護活動の課題と今後の展望	少子化、高齢化等の社会の変化に対応する地域看護活動の課題と今後の展望について考える			
テキスト、教材、参考書		地域看護学総論:飯田澄美子、金川克子 メデカルフレンド社			
成績評価の方法		筆記試験			
メ ッ セ ー ジ		看護職が地域で広く活動している姿を紹介します。みなさんの視野も一段と広がることと思います。			

授 業 科 目 名	成人看護学の基礎	担 当 教 官	新 藤 悦 子		
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前期	水曜日	I 時限
単 位	1単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	成人 自立した存在 健康生活 生活習慣病 保健行動				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	成人期にある人の身体機能の特性や社会、精神生活の特徴を理解し、生活の視点から成人期にある人の健康問題を援助する基礎となる知識と技術を学ぶ。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	成人看護の意義	成人看護の目的・位置づけを知り、その意義を学ぶ。 成人に対する各自のイメージを出し合い、成人の概念を学ぶ動機とする。			
2	成人期とは	ライフサイクルにおける成人期、成長・発達の概念と成人期について学習する。 各自の成人のイメージをまとめ成人の特性を考える。			
3	成人期と発達理論	成人期にある人を理解するための発達理論を学ぶ。			
4	成人各期の特徴	<グループワーク> 青年期、壮年期、向老期の身体的、心理的、社会的特徴についていくつかの視点から調べ、また実際の例を収集しまとめる。			
8	成人期の健康問題	人口に動向、疾病状況、死亡の動向など健康指標にみる成人の特徴および生活のなかみみる成人の健康問題を学習する。			
9	健康を保つメカニズム(1)	健康に対する信念、価値観、心理社会文化的要因について学ぶ。特に健康に対する信念、価値観を反映する保健医療行動の理論について学習する。			
10	健康を保つメカニズム(2)	成人期の発達の、状況的危機と対処機制について学習する。			
11	健康障害をもつ成人の理解	成人期にある人が健康を障害されることによって受ける問題とその反応への影響要因について学び、健康を障害された成人期にある人を理解するための指針とする。			
12	成人期の健康障害と回復過程	成人期にある人の健康の保持増進、疾病予防、健康障害からの回復過程について学習する。			
13	成人期の健康障害と回復過程と看護の役割機能	経過別の看護の役割機能について学習する。さらに看護婦と成人患者の援助関係についてその基本概念、要素を学ぶ。			
14	成人看護における教育的機能	成人看護における教育的機能を理解し、その援助に必要な知識を学ぶ。			
15	まとめ				
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「成人看護学 1」 その他講義中に提示する				
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート				
メッセージ	健康問題に主体的に取り組んでいく成人期にある人への援助を概説します。 自己の成人観を確立しつつ、成人期にある人への看護の役割機能を学習します。				

授 業 科 目 名	急性期の成人看護学	担 当 教 官	矢 嶋 和 江		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	金曜日 火曜日	I、II時限 I時限
単 位	3単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	急性期の病態生理、手術、麻酔、術後合併症、多臓器不全、喪失、ADL				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	<ol style="list-style-type: none"> 急性期疾患(特に手術適応)の病態生理について理解を深め、手術浸襲における生体の反応を手術前手術後管理の中で関連させて理解する。 手術を受ける患者の社会心理的、身体生理的状态をアセスメントし、看護援助について理解する。 手術を受けた患者の社会心理的、身体生理的機能を理解し、看護の役割、援助技術を理解する。 リハビリテーション看護の目的を知り、日常生活動作の援助の方法を理解する。 感染を受けた患者の援助技術、感染防止策について理解する。 				
回	講 義 題 目	内 容			
1	< 総 論 : 前 期 > 1. 手術浸襲による生体の反応	手術浸襲が生体に及ぼす影響、生体の機能、心肺機能およびその他の臓器への影響について概説し、手術前の身体生理学的状態のアセスメントができるように学習する。			
2	2. 手術前後の患者管理	①術前管理の原理と術後合併症の病態について理解する。			
3	1) 手術前の管理	②手術に対する患者の精神的・身体的準備について学習する。 患者オリエンテーション、観察のポイントなどについて解説する。			
4		③家族の心理的特徴を理解し、精神的ケアの技術について学ぶ。			
5	2) 手術室における看護	①手術室における患者管理と緊急対応について理解する。 麻酔の種類とその管理について解説し麻酔の合併症およびその危険性について理解する。			
6		②手術患者の環境としての手術室の構造、安全を重視した設備、感染防止対策などについて理解し、手術室看護婦の役割について学ぶ。			
7		③周手術期における看護を中心に患者の不安への援助の必要性を理解し、安全に手術が終了するまでの手術看護の展開技術を学ぶ。			
8		④説明、麻酔導入、体位のセッティング他、回復室での観察などについて学び、病棟での継続看護のための引継ぎの重要性を理解する。			
9					
10	3) 手術後の看護	①手術直後の患者のアセスメントと看護援助について学ぶ。 最も変化を生じ安くない不安定な状況にあることから、何をどう観察するのかを理解する。また痛みへの援助についても学習する。			
11		②合併症の予防と回復への援助:麻酔、手術浸襲は様々なかたちで生体に影響を与え、結果として合併症を発症しやすい状況にあることを理解し、予防のための援助技術を学ぶ。			
12		③術後の精神障害について理解し、その予防的かかわり方や、発症時の看護のケアについて学ぶ。			
13		④機能回復への援助における看護の役割について理解する。在宅に向けた家族、介護者への援助および退院指導			
14	トピック(看護事故)	周手術期に発生しやすい看護事故について理解する。輸血取り扱い、ドレーン類の抜去等			
15	まとめ&グループワーク				
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「成人看護学」 1、プリント、VTR、適宜参考文献提示				
成績評価の方法	試験・レポート・出席状況・授業態度など総合的に判断する。				
メッセージ	重要な單元なので前回の復習と質問を繰返しながら進めるので、復習は必ず必須条件。解剖生理学や病態学等と関連づけて講義するので理解しておく。				

回	講義題目	内 容
	<各論:前期>	
16	3. 胃切除患者の援助	胃の機能及び胃の腫瘍と手術法、胃手術後の合併症などについて概観し、手術後における食事療法への看護援助について学ぶ。
17 18	4. 腸切除患者の援助	腸の機能及び腸の腫瘍と手術法、腸手術後の合併症などについて概観し、手術前における消化管準備とその必要性について理解する。
19	5. 乳癌患者の援助	①乳癌の手術を含む治療法について最新情報を取り入れて概観する。 ②乳房切除に対するボディイメージの喪失といった受容過程への援助 ③術後に起こる上肢の機能障害等の合併症について理解し、リハビリテーションの援助を学ぶ。
20 21	6. ストーマリハビリテーション看護	術後、排泄機能を装具により行わなければならない患者の援助について学ぶ。ケアに必要な種々の排泄補助用具を紹介し、その取り扱い方法、装着にあたり注意すべき点などについて理解する。
22 23	7. 整形外科看護の概論	①整形外科看護の特殊性について述べ、治療対象である患者の身体的、社会的心理的状況が理解できる。 ②整形外科的治療を受ける患者の看護を中心に述べる。 ギブスの装着患者、牽引療法を受けている患者など
24	8. 人工関節置換術を受ける患者の看護	保存療法や手術療法があるが、人工関節の発症経過について概観し人工関節置換後のリハビリテーションについて述べる。
25 26	9. スポーツ外傷障害の看護	近年スポーツ外傷の治療成績は向上し、重傷な外傷でも、競技に復帰が可能となっている。特に膝靭帯損傷患者のケースを取り上げ、社会的心理的、精神的問題のアセスメントを通じて、整形外科看護の特性を理解する。
27	10. 脊髄損傷患者の看護	交通事故などによる高位レベルでの損傷患者が増加している。若い年齢層が多く、障害に対する受容過程への看護援助の在り方について学び、家族を含めた社会の受け入れ状況を理解する。また、患者の看護で最も重要な点は排泄管理である。尿路感染などの合併を併発しやすく、その管理について学習する。
28	11. 下肢切断患者のリハビリテーション看護	整形外科で扱う腫瘍には骨肉腫がある。十代の若年層に発生することで、切断への受容過程は家族の意向が強く左右する。切断の受容過程はリハビリテーションの効果にも影響することから、患者家族との関りは重要である。ここでは、受容の過程からリハビリテーション支援に至る看護の関わりについて学ぶ。
	<各論:後期>	
1 2	1. 集中治療看護とは	①ICU・CCUの概念について概説し、集中治療室に収容される患者の特徴と看護の役割について理解する。 ②集中治療室の環境からくる患者の心理的反応の特徴についてアセスメントし、また家族への関わりの重要性を理解する。
3 4	2. 人工呼吸器装着患者の看護	呼吸器を必要とする患者の病態を理解し、装着患者の日常ケアの技術について学ぶ。
5 6 7	3. 循環器疾患患者の看護	①虚血性心疾患について概説し、その症状、徴候についてアセスメントし、生じやすい問題とその援助について述べる。 ②急性心筋梗塞者の生命に対する不安や恐怖への援助、リハビリ期における精神的・社会的な支援の必要性について理解する。 ③外科的治療を受ける患者の援助について述べる。
8 9	4. 感染症患者の看護	①感染症の今日的課題について概説し、感染症予防に伴う法的問題、患者隔離等に関する看護援助について理解する。 ②院内感染とは何かについて学習し、施設内における院内感染防止対策の実態について理解する。
10	5. 人工臓器と看護	ペースメーカーに代表される人工臓器の種類と看護との関わりについて概説する
11 ~ 14	6. 施設見学	施設見学
15	7. まとめ	

授 業 科 目 名	慢性期・終末期の成人看護	担 当 教 官	新 藤 悦 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	火曜日 金曜日	Ⅱ、Ⅴ時限 Ⅲ、Ⅳ時限
単 位	3単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	慢性期、慢性疾患、セルフケア、病者役割行動、がん、終末期、QOL、緩和ケア、ソーシャルサポート				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	慢性疾患及びがんがその人の人生に及ぼす影響を全人的にとらえ、自己の病気を主体的に管理し、生活様式の変更、維持するために必要な専門的支援の知識技術を学ぶ。予後不良の疾患により限られた時間を生きる人及び家族のニーズを学び、最期までその人らしく生きるための援助を学ぶ。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	慢性期にある人の特徴	慢性期とは、慢性疾患及び慢性期の健康障害の特徴を学び、慢性期にある人の心身、生活、家族への影響を理解する			
2	慢性期にある人の看護の特徴	セルフケアの概念及びセルフケアに影響する要因を学び、セルフケア能力のアセスメント、病気受容過程への援助、症状コントロール、患者教育など看護の特徴を学ぶ			
	各機能障害をもつ患者の看護	成人期に特徴的な慢性疾患を取り上げ、看護を行うにあたって必要な既習の知識を使いながら、看護の方法論を学ぶ			
3 ～ 6	1) 肝機能を障害された患者の看護	肝機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ			
7 ～ 10	2) 腎機能を障害された患者の看護	腎機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ 透析療法を受けながら生活する人の看護も学ぶ			
11 ～ 14	3) 糖代謝機能を障害された患者の看護	糖尿病によって心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ			
15 ～ 18	4) 呼吸機能を障害された患者の看護	呼吸機能を障害され酸素摂取予備力が低下したことによって心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ			
19 ～ 22	5) 循環機能を障害された患者の看護	心機能が低下したことによって心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ			
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「成人看護学 1、別巻10ターミナルケア」 新版看護学全書「成人看護学2、3、4、5、6、7、10」、その他講義中に提示する。				
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート				
メ ッ セ ー ジ	慢性疾患と共に生きていくために、自分の状況を受け入れ、生活習慣や行動の変化を迫られる人を支援するために必要な援助の方法を学習します。既習の知識を復習し、講義に臨んで下さい。またがん、予後不良という病気が人々に与える影響について文献学習や討議を交えて学習して行きたいと思います。				

回	講 義 題 目	内 容
23 ～ 24	6) 自己免疫機能を障害された患者の看護	自己免疫機能障害特に膠原病によって心身の変化及び生活への影響を学び、看護援助の実際について学ぶ
25 ～ 26	1) がんの特性とがん患者の理解	成人期のがん疾患の動向、予防・発見システム、がん疾患が及ぼす身体的、心理的、社会的影響と看護の特徴を学ぶ
27 ～ 28	2) がん患者がもつ特徴的な症状と看護	疼痛、栄養障害、感染、消化器症状などに対する看護の方法を学ぶ
29 ～ 30	3) がん治療を受ける患者がもつ問題と看護	化学療法、放射線療法などがん治療を受ける患者への看護を学ぶ
31	4) がんと共に生きる	「真実を知る」という問題、がんと共に生きていくためのプログラム、家族がもつ問題と支援、患者と家族を支えるソーシャルサポートについて学ぶ
32 ～ 33	5) 事例をもとにがん看護を支える 終末期にある人の看護	いくつかの事例をもとに患者の理解を深め、がん看護について考える機会とする
34	1) 成人期の終末期	病によって終末期と診断された成人期の患者の理解を深めるためにまず自分の人生の終わりについて、生や死について自分の反応を表出してみる
35	2) 現代終末期医療と終末期看護の理念と目的	現代の終末期医療の現状と課題、終末期と診断することの意味、倫理的課題、終末期医療における看護の理念と目的を概観する。
36 ～ 37	3) 終末期にある人がもつ問題と看護	身体的苦痛とその援助、精神・社会的苦痛と援助について学ぶ 日常生活行動への援助について学ぶ
38	3) 終末期における家族への援助	終末期にある患者の家族のニーズ、死別の受容のプロセスなどを学び、家族への援助について学ぶ
39 ～ 40	4) 事例をもとに終末期の看護を考える	いくつかの事例をもとに終末期の患者と家族の理解を深め終末期の看護について考える機会とする
41 ～ 42	慢性期看護に必要な技術演習	
43	まとめ	

授 業 科 目 名	成人看護学特講	担 当 教 官	矢 嶋 和 江		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	火 曜 日	V 時 限
単 位	1単位	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択	選 択 必 修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	受容、危機的状況、役割モデル				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	急性期における患者の事例をもとに、看護過程の展開をおこなう。 臨地実習に向けたケースの問題解決技術の能力を育成する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	講義・演習の進め方についてのオリエンテーション 事例紹介	<p>進め方</p> <p>4～5グループに編成。 1G、1事例を担当</p> <p>①手術を受ける患者の心理を考察し、その心理的支援について考える。</p> <p>②人工肛門造設患者の心理を考察し、そのストーマ受容に至る過程の事例について考える。</p> <p>③癌患者の喪失及び喪失感について考え、その看護援助について検討する。 乳癌術後患者の看護援助</p> <p>④下肢切断術後リハビリテーション患者への看護ケアについて考える。</p> <p>⑤危機的状況におかれた患者の看護援助について検討する。 救急場面における患者の生存への不安事例</p> <p>☆提起された事例によって、アセスメントし、看護上の問題を抽出し、看護ケアプランを立案する。</p> <p>☆役割モデルによるロールプレイを行い、患者の心理を理解する。</p> <p>☆グループワークを主体とし、全体発表によるまとめを行う。</p>			
テキスト、教材、参考書	プリント、参考資料はその都度提示する。				
成績評価の方法	課題やレポート、筆記試験 GWでの参加状況など総合評価する。				
メ ッ セ ー ジ	GWや役割モデルによるロールプレイを通じて活発な意見交換を行ってほしい。				

授 業 科 目 名	老年看護学の基礎	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	月曜日 木曜日	IV時限 I時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	1. 老人の生きてきた時代、老化の特徴、加齢の伴う変化が理解できる。 2. わが国の老人保健対策について理解できる。 3. 老年看護を実践するために必要な衛生統計の見方が理解できる。				
回	講 義 題 目	内 容			特記事項
	<前期>				
1	老年看護学の導入	老年看護学のねらい、授業のすすめ方 「老人・高齢者」という人間のイメージを記述する。			
2	老人の生きてきた時代 グループワーク	老人とは(定義、分類を学ぶ)			別紙配布
3	グループディスカッションのあり方	テーマ:現代老人の生きてきた時代 内容:社会の出来事、生活、医療、看護を一覧にする VHS「12人の怒れる男」を鑑賞し、グループワークの 参加方法を学ぶ			GWのすすめ方
4	グループワーク				
5					
6	グループワーク発表				
7					
8	老年期の特徴	老人を理解する一方法として、身体、精神、心理、社会、経済の4側面から共通する特徴をグループワークで学ぶ。			別紙配布
9	グループワーク				GWのすすめ方
10					
11					
12	グループワーク発表				
13					
14	前期まとめ	1. 老人の生きてきた時代で特徴的なこと、生活、福祉、医療の中で大きく変化した出来事についてまとめる。 2. 老年期の特徴のPointを説明し、後期授業の説明をする。 3. 夏休み課題:1人の老人にインタビューし、その人が何を考え、どのように生きてきて現在に至ったかをレポートする。			
テキスト, 教材, 参考書	国民衛生の動向				
成績評価の方法	グループワークの参加度、筆記試験				
メッセージ	老年看護学はどのようなことを学ぶ学問であるかを共に学び、考えてみましょう。				

回	講義題目	内 容	特記事項
	<後期>		
15	老化の過程と疾病への影響	老化の定義、老化の4特徴とその例 老化の分類、老人の適応とその例	
16	加齢に関連した正常な生理的変化の	感覚器系、皮膚・外皮系	プリント配布
17	その結果	呼吸器系、心臓・血管系、消化器系	
18		消化器系、泌尿・生殖器系、筋・骨格系、神経系 プリントをもとに、身体各器官の位置を質問しながらすすめる	
19	システムレビューについて	システムレビューとは、目的、理学的所見のとり方	プリント配布
20	家族の問題と家族支援	家族構成の変化とその背景 家族にかかわる問題の概観	
21	国の保健対策の動向	保健対策が変化してきた背景 疾病予防対策(生活習慣病について、感染症について)	
22	高齢者医療と福祉の推移	制度成立の背景、制度の効果 老人保健法とは	
23	老人福祉対策	「国民衛生の動向」に中の図・表の読み方、まとめ方について説明する。特に老年看護学に関わるすべての図・表を取り上げ、質問しながらすすめる。	
24	統計資料の読み方		
25	医療保障	老人医療費、老人診療報酬の考え方 老人病院のスタートとその背景 老人病院の問題から見えるものの説明	
26	老人医療制度		
27	中間試験	後期学習分の試験を実施する	

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期	火曜日 木曜日	Ⅱ時限 Ⅴ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	老人の疾病とその経過・看護ケアを必要とする健康問題と対応方法が理解できる。				
回	講 義 題 目	内 容			特記事項
1 2	老人の健康障害の特徴	老人に多い障害、障害の現れ方の特徴 健康障害の経過と合併症の問題 障害の予後に関連する問題			プリント配布
3 4 5	治療を伴う老人の看護	検査、薬物・食事療法時の看護のポイント 〔 検体採取時の注意、観血的検査時の注意点 食事・薬物療法の目的・方法・観察事項など 〕 各々代表例をあげて説明する			
6 7 8	外来通院、入院、退院における老人の援助	老年期の健康指導の特徴 外来フォローアップについて 〕 介護に関わる問題について 具体例をあげて説明する			
9 10	ターミナル期にある患者の看護	老人のターミナル期の特徴 老人の望む死と現実、老人の死に対する家族の対応と取り残された家族、ぼっくり願望の背景にあるもの			プリント配布
11 12	いたみのある患者の看護	いたみの概念、老人のいたみの特徴 術後痛・癌性疼痛の緩和について			
13	日常生活の中でおこりやすい健康問題とその援助				
14	1) 転倒防止	原因・誘因とその結果 老人・家族への指導			
14	2) 便秘とケア	原因・誘因とその結果 回復のプロセスと看護の役割 老人・家族への指導			
15	3) 尿失禁とケア	定義、原因、看護ケアのポイント			
16	4) えん下障害とケア	正常えん下機構、えん下機能の診断・評価 摂食時の観察ポイント			
17	5) 不眠とケア	定義、原因、看護ケアのポイント			
テキスト, 教材, 参考書	参考書: 系統看護学講座20 老年看護病態・疾患編 資料は授業の中で配布する。				
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート				
メ ッ セ ー ジ	病気の老人を看護するために必要な知識を自己学習を中心にしっかり学びましょう。				

回	講義題目	内 容	特記事項
18 19 20	褥創予防とケア	発生機序(外因性因子、内因性因子) 病型分類、合併症、予防、治療	
21 22	寝たきり防止	寝たきりの原因 寝たきりを防ぐケアと機能訓練(リハビリテーション) 家族・介護者への指導、社会的資源の活用	
23 24 25	痴呆・抑うつ老人の看護	痴呆とは、痴呆に伴う抑うつ症とは 基礎疾患と痴呆症状 看護ケアと管理、痴呆老人に関わる家族への支援 VHS「恍惚の人」「天井から降る悲しい音」の紹介	
26	長期ケアと介護	老人の長期ケアの場とその特徴 老人病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム 長期ケアにおける社会資源の活用 介護の問題	
27 28	予備日		

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	月・水曜日	I 時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	1. 老化の過程とそれに伴う心身の変化および疾病の特徴を理解できる。 2. 老人が罹患しやすい病気をとりあげ、病態生理、共通する看護ケアを理解できる。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	老人の生理的特徴	脳の老化、運動機能の老化、心肺機能の老化、腎機能の老化、性機能の老化			
2		老人の自殺について疫学調査結果と今後の課題			
3					
4	老人に多い疾患 老人の死因となるもの	疫学調査結果をもとに、5大疾病・死因の概観			
5	脳血管障害・高血圧症	解剖と生理、各部位の働き、脳循環と血液系、主要症候、検査と治療、			
6	患者の看護	各疾患の特徴を明らかにする。			
7		5回～6回目自己学習 7回目発表、ディスカッション 8回目まとめ			
8					
9	消化性潰瘍・癌患者の看護	解剖と生理、各部位の働き、分泌と運動、消化と吸収、主要症候、検査と治療			
10		各疾患の特徴を明らかにする。			
11		9回～10回目自己学習 11回目発表・ディスカッション・まとめ			
12	白内障患者の看護	解剖と生理、検査と治療、手術・経過を明らかにする。			
13		12回～13回目自己学習 14回目発表・ディスカッション・まとめ			
14					
15	中間試験 1	試験範囲：脳血管疾患、消化性潰瘍と癌、白内障患者の看護 全般			
16	骨粗しょう症、骨折	解剖と生理、骨折の種類、合併症と治療			
17	患者の看護	リハビリテーションと看護を明らかにする。			
18					
19					
20	前立腺肥大症患者の看護	解剖と生理、排尿のメカニズム、検査と治療・看護を明らかにする。			
21		20回～21回目自己学習 22回目発表・ディスカッション・まとめ			
22					
23	歯と口腔疾患	解剖、症状、治療・看護、義歯に関するケア			
24		23回～24回目自己学習 25回目発表・ディスカッション・まとめ			
25					
26	中間試験 2	試験範囲：骨折、前立腺肥大症、歯と口腔疾患 全般			
27	まとめ	特に理解してない箇所の全般を復習し、疾病と看護のポイントを整理する			
28	予備日				
テキスト, 教材, 参考書	参考書:「老年看護の健康障害と看護Ⅰ」と同じ 資料は授業の中で配布する。				
成績評価の方法	発表内容、筆記試験				
メ ッ セ ー ジ	看護を実践するために病態生理をしっかり学びましょう。				

授 業 科 目 名	老年看護学特講	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	火曜日	V時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	疾病をもつ老人の事例をもとに、ヘルスアセスメント、看護過程の展開を行う。 この学習を基礎に、3年後の実習を効果的に実施できる力を育成する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	授業のすすめ方	グループワークについて 1. 事例の提示 2. 事例の全体像の把握 3. 疑問点の調査 4. ケアプランの立案 5. まとめ			
2	寝たきり老人の事例	経過、機能評価予測される合併症、ケアの継続について明らかにする。			
3					
4	痴呆性老人の事例	痴呆の分類、経過、症状、看護ケア			
5		ケアの継続について明らかにする			
6	まとめ 1	公的介護保険導入にあたり、看護婦の役割を明らかにする。			
7	まとめ 2	老人看護ケアプラン作成と実施にあたり、看護婦が他職種とどのように関わり援助するかを検討する。			
	テキスト、教材、参考書	資料は授業の中で配布する。			
	成績評価の方法	課題レポート、筆記試験			
	メ ッ セ ー ジ	グループワークにより、事例の分析・問題解決ができる能力を身につけましょう。			

授 業 科 目 名	小児看護学の基礎	担 当 教 官	高 田 茂 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	火曜日	II時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	1. 小児の特徴を理解する。 2. 小児をとりまく環境の意義を理解する。 3. 小児観の歴史的変遷を理解する。 4. 小児保健統計をふまえ、小児を保護する法律や保健対策を理解する。 5. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的を理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	1. 小児とは	1)小児の特徴			
2	2. 小児の成長発達	1)成長の発達論 (1)総論 (2)原則 (3)影響する因子 (4)成長発達の区分			
3		2)小児の成長発達 (1)形態的成長 ・体重・身長・頭部・胸部・その他 (2)機能的発達 ・呼吸・循環・血液・体温・消化・水分と電解質・免疫 (3)精神・運動機能の発達 ・新生児期・乳幼児期・学童期・青年期			
5	3. 小児各期の日常生活	1)乳幼児の養護と生活 (1)基本的生活習慣と養護 (2)日光浴と空気欲			
6		2)学童の生活 (1)学童の生活行動 (2)学童の健康問題			
7	4. 小児の発達と環境	1)発達に影響する影響			
8		2)小児と栄養 (1)小児栄養の特徴と重要性 (2)乳児の栄養 (3)幼児の栄養 (4)学童の栄養			
9		3)小児と家族 (1)子どもの発達からみた家庭の意義 (2)母親との関係 (3)父親との関係 (4)きょうだいとの関係			
10		4)小児と社会 (1)小児観の変遷 (2)現代の子ども			
		5)子どもにとっての遊び			
12	5. 小児と保健	1)小児の健康			
		2)保健統計からみた小児の健康			
13		3)小児をめぐる法律と政策			
		4)小児を保護する法律と保健対策 ①健康診査と保健指導 ②予防接種			
14	6. 小児看護の変遷	日本の場合			
15	7. 小児看護の理念・目的	1)小児看護の特徴 2)小児看護の目標 3)小児看護の役割 4)小児看護婦のあり方			
テキスト, 教材, 参考書		「小児看護学」 著者:吉武香代子、医学書院 参考書:その都度紹介する。			
成績評価の方法		・ペーパーテスト ・レポート			
メッセージ					

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護 I	担 当 教 官	高 田 茂 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	月曜日 水曜日	Ⅲ、Ⅳ時限 Ⅱ、Ⅲ時限
単 位 , 必 ・ 選	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	1. 健康障害された小児を理解する。 2. 健康障害された小児の家族に及ぼす影響と反応を理解する。 3. 小児の健康段階に応じた看護の方法を理解する。 4. 主な症状を持つ小児の看護を理解する。 5. 治療・処置を必要とする小児の看護する。 6. 小児基礎看護技術の特殊性を理解し、身につける。 7. 小児の継続看護の場及び看護活動の方法を理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	1. 健康障害された小児の看護	1)小児と病気	(1)小児が病気に対する反応 (2)病気が小児に及ぼす影響		
2		2)入院と小児	(1)入院を要する小児 (2)入院時に経験する変化、反応、 (3)看護婦の役割		
3		3)入院中の小児の看護	(1)新生児の看護 (2)乳児の看護 (3)幼児の看護 (4)学童の看護 (5)中学生の看護		
4		4)病気を持つ小児の家族	(1)家族の反応 (2)母親の反応 (3)看護婦の役割		
5	2. 健康段階に応じた看護	1)急性期にある小児の看護	(1)小児の急性期症状の特徴 (2)看護		
6		2)回復期にある小児の看護	(1)小児の回復期症状の特徴 (2)看護		
7		3)慢性期にある小児の看護	(1)小児の慢性期症状の特徴 (2)長期入院時の小児看護 (3)外来での小児の看護		
8		4)終末期にある小児の看護	(1)終末期にみられる小児の症状 (2)終末期にある小児の心理的問題 (3)看護		
9					
10	3. 主要症状別看護	1)全身症状	・発熱 ・泣き ・痛み		
11		2)呼吸器症状	・呼吸困難 ・喘鳴 ・咳		
12		3)循環器症状	・チアノーゼ ・頻脈 ・不整脈		
13		4)神経症状	・意識不明 ・けいれん ・麻痺		
		5)消化器症状	・嘔吐 ・下痢 ・便秘		
テキスト, 教材, 参考書	「小児看護学」 著者:吉武香代子、医学書院 「小児看護心理学」 著者:小嶋謙四郎、医学書院 参考書:その都度紹介する。				
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート他				
メ ッ セ ー ジ					

回	講 義 題 目	内 容
14	4. 小児看護技術	6) 排尿症状 ・乏尿 ・多尿
15		7) 水分代謝の異常 ・脱水 ・浮腫
16		8) 皮膚症状・発疹 ・かゆみ
17		1) 小児の日常生活の援助技術
18		食事(乳児・幼児・学童)
19		排泄(乳児・幼児)
20		清潔(清拭・入浴・歯磨き)
21		着脱
22		睡眠
23		環境
24		2) 共通技術
25		(1) 身体の測定 (2) バイタルサイン測定
26		3) 診療時の援助技術
27		(1) 環境整備 — ・保育器の扱い ・新生児のベット、幼児のベットの扱い
28		(2) 点滴中の看護
29		(3) 吸引時の看護
30		(4) 抑制時の看護 — ・チョッキ ・ひも
	(5) 各処置時の固定 — ・採血 ・腰椎穿刺等	
14	5. 治療・処置を必要とする小児の看護	1) 薬物療法を受ける小児の看護
15		・与薬量の決定 ・薬物の投与方法
16		2) 食事療法を受ける小児の看護
17		・食事療法とは ・栄養障害のある乳児 ・食事制限のある小児
18		3) 安静療法を受ける小児の看護
19		・安静とは ・安静を必要とする小児 ・看護
20		4) 放射線療法を受ける小児の看護
21		・放射線療法とは ・看護
22		5) 手術を要する小児の看護
23		(1) 小児外科看護の特徴
24		(2) 手術を受ける小児の看護
25		6) 牽引及びギブス包帯施行中の小児の看護
26		7) 救急処置
27		(1) 一般的注意事項 (2) 乳幼児の蘇生法
28		1) 小児病棟での看護
29		(1) 小児病棟管理 (2) 入院、退院時の看護
30		2) 家庭療法
	3) 外来における小児の看護	

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護 II	担 当 教 官	高 田 茂 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期	火曜日	IV時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	1. 小児に出現しやすい疾病・病状を理解する。 2. 小児に出現しやすい疾病・症状に対する看護について理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	1. 小児の経過の特徴	1)急性期にある小児の特徴 2)回復期にある小児の特徴 3)リハビリテーションを必要とする小児の特徴 4)予後不良の小児の特徴			
2	2. 小児期にみられる主な健康障害	1)胎内での影響を受けた健康障害 (1)染色体異常 (2)新生児の適応障害 (3)低出生体重児			
3		2)呼吸器に障害がある小児 (1)肺炎			
4		3)循環器・血液系に障害がある小児 (1)先天性心疾患 (2)突然死			
5		4)消化器に障害のある小児			
6		5)腎・泌尿器系に障害のある小児 (1)腎炎 (2)ネフローゼ症候群 (3)紫斑病			
7		6)悪性新生物 (1)脳腫瘍 (2)神経芽細胞腫 (3)白血病			
		7)免疫・アレルギー疾患の小児 (1)気管支喘息			
		8)感染を受けた小児 (1)ウイルス感染症 (2)細菌感染症			
		9)脳・神経系に障害のある小児 (1)脳性麻痺 (2)てんかん			
		10)その他 川崎病			
	3. 小児期にみられる主な健康障害に対する看護	1)低出生体重児(未熟児)看護 2)呼吸器に障害がある小児の看護 (1)肺炎 (2)かぜ症候群 3)循環器・血液系に障害がある小児の看護 (1)先天性疾患をもつ小児の看護 4)消化器に障害のある小児の看護 (1)口内炎疾患を持つ小児の看護 (2)先天性消化器疾患をもつ小児の看護 5)腎・泌尿器系に障害のある小児の看護 (1)腎炎をもつ小児の看護 (2)ネフローゼ症候群をもつ小児の看護			
テキスト, 教材, 参考書	「小児看護学」 著者:吉武香代子、医学書院 参考書:その都度紹介する				
授業の形式、視聴覚材料の活用	講義				
成績評価の方法	ペーパーテスト・他				
メ ッ セ ー ジ					

回	講 義 題 目	内 容
		<p>6) 悪性新生物をもつ小児の看護 (1)脳腫瘍になった小児の看護 (2)神経芽細胞腫になった小児の看護 (3)白血病になった小児の看護</p> <p>7) アレルギー疾患の小児の看護 (1)気管支喘息になった小児の看護</p> <p>8) 感染を受けた小児の看護</p> <p>9) 脳・神経系 障害のある小児の看護(脳性麻痺・てんかん)</p> <p>10) その他 川崎病</p>

授 業 科 目 名	小児看護学特講	担 当 教 官	高 田 茂 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	V時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果	1. 小児の発達段階の特徴を踏まえた看護過程の展開を理解する。 2. 看護過程の展開を通じて、小児・家族との関係を理解し援助の方法を学ぶ。 3. 小児看護について考える。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	1. 小児の発達段階の特徴を踏まえた看護過程の展開を理解する。	1) 看護の対象である小児の特徴について 2) 小児の特徴を踏まえた情報収集について 3) 情報分析について 4) 問題点の優先順位の決定について 5) 看護目標・解決策について 6) 実施・評価について			
2	2. 紙上事例をもとに、小児の特徴を踏まえて看護過程の展開をする。	1) 事例の情報収集の分析を行う			
3		2) 事例の分類した情報の分析を行い問題点を抽出する			
4		3) 事例の問題点の優先順位を決定し、看護目標を設定できる			
5		4) 事例の解決策の立案ができる			
6		7. 事例の解決策に沿って実施する			
7	3. 小児看護について再確認する	8. 事例の実施後評価し、修正する			
		看護過程の展開を終えて、小児看護についてまとめる (事例については、開始時に提示する)			
テキスト, 教材, 参考書	「小児看護学」 著者:吉武香代子、 医学書院 参考書:その都度紹介する。				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 ・グループワーク ・学内学習				
成績評価の方法	ペーパーテスト・他				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	母性看護学の基礎	担 当 教 官	大 嶋 秀 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	IV時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	母性の概念 生殖生理 性機能 母子保健行政 母子保健統計 性教育 家族計画				
授業の達成目標及び期待される学習効果	種族保存における母性の意義と特性および母性看護の機能と役割について総合的に理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			特記事項
1	母性看護の概念	母性とは 母性看護とは			
2	人間の性と生殖	性と生殖の概念 セクシュアリティ 生殖器の解剖生理			思春期の母性発達状況調査
3		性機能			
4	母性の特性	母性の心理 母性行動と母子関係			母性看護に関連する新聞記事よりレポート作成
5	母性各期における生理的特徴と保健	思春期			(調査結果報告)
6		成熟期			
7		更年期 老年期			
8	母性看護の沿革と現況	母性看護の変遷と諸外国の現状 母性看護の現況と動向			
9		母性看護に関連する組織と法律 母性看護の場と職種			
10	家族計画	家族計画の意義 受胎調節指導			
11		人工妊娠中絶の諸問題 不妊症 遺伝相談			(環境ホルモン VTR学習)
12	母性看護の技術	母性看護における看護過程			事例検討
13		母性看護における保健指導			事例検討
14		特殊な問題をもつ母性の看護と保健指導			事例検討
15	試験				
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「母性看護学」1 医学書院				
成績評価の方法	ペーパーテスト レポート提出 出席状況				
メ ッ セ ー ジ	健全な次世代を生み育てる機能と過程を学び、母性看護の責務を学ぶ。				

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護 I	担 当 教 官	大 嶋 秀 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	火曜日 火曜日	Ⅲ、Ⅴ時限 Ⅱ、Ⅳ時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	妊娠の生理 胎児の発育 正常分娩・産褥・新生児 妊婦・産婦・褥婦の看護 ハイリスク妊婦 正常分娩 産褥 新生児 母性看護の技術				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦における生理的变化とその特性を理解し、母子、夫、家族に対して必要な看護を学ぶ。 2. 対象に適した看護が展開できるための基礎知識・技術及び態度を理解する。 3. 正常産褥 新生児の生理と周産期医学・母性衛生学を理解する。 4. 対象に適した看護が展開できるための基礎知識・技術及び態度を理解する。 5. 次年度行われる実習につなげ、母性看護に対する理解を正確なものとする。 				
回	講 義 題 目	内 容			特記事項
1	正常妊娠 妊娠の生理	妊娠の定義 妊娠の成立 妊娠の持続期間			テキスト
2	胎児の発育と生理	胎児の発育 胎盤の構造と機能 羊水 母体の妊娠による生理的变化			
3	妊婦の看護と保健指導	心理・社会的特性			
4	妊婦の看護と保健指導	妊婦の看護アセスメント			
5		妊婦の健康管理 保健指導			
6	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊娠の看護			
7	演習	骨盤外計測 妊婦計測 触診法 児心音聴取 呼吸法 妊婦体操			
8	演習	骨盤外計測 妊婦計測 触診法 児心音聴取 呼吸法 妊婦体操			
9	演習	骨盤外計測 妊婦計測 触診法 児心音聴取 呼吸法 妊婦体操			
10	正常分娩	分娩の三要素 分娩の機序 分娩経過			
11	産婦の看護	産婦の理解と看護 心理・社会的特性			
12	産婦の看護	産婦の看護 分娩の経過と看護 産痛と無痛分娩			
13		ハイリスクおよび異常分娩の産婦の看護			
14		産科病棟管理			
15	中間試験	学習効果を評価する。			
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「母性看護学」2 医学書院			
成績評価の方法		ペーパーテスト レポート提出 出席状況			
メ ッ セ ー ジ		妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について学び、対象の看護が展開できるようにする。命の誕生と母子を取り巻く環境を理解する。			

回	講 義 題 目	内 容	
16	正常褥婦	身体的特性	
17	褥婦の看護	心理・社会的特性	
18	褥婦の看護	褥婦の看護アセスメント	
19		褥婦・出生直後の新生児の看護	
20	(演習を含む)	産褥体操指導	
21	演習	新生児の沐浴 計測	
22	演習	授乳指導 母乳栄養確立	
23	新生児の看護	乳房管理 新生児の生理	
24	新生児の看護	低出生体重児の看護	
25	新生児の看護	新生児期におけるアタッチメント	
26	周産期の異常	周産期の異常の理解と看護 危機状況と看護	
27		感染症と看護	
28	事例検討	看護過程	
29	事例検討		

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護 II	担 当 教 官	大 嶋 秀 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期	木曜日	I 時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児 異常妊娠・分娩・産褥				
授業の達成目標及び期待される学習効果	妊娠褥婦及び新生児の正常・異常状態に応じた看護問題の査定及び解決のために必要な知識と方法を習得する。				
回	講 義 題 目	内 容			特記事項
1	異常妊娠	妊娠中毒症 妊娠悪阻			テキスト
2	異常妊娠	子宮外妊娠 子宮外妊娠の看護			
3	異常妊娠の看護	妊娠中毒症 妊娠悪阻			
4	不妊症 流産 早産 過期妊娠	胎外受精 胚移植 流産 早産の看護			
5	妊娠中の感染症	エイズ 妊娠と放射線 公害 薬物使用 予防接種			
6	先天異常	遺伝子病 染色体異常			
7	胎児付属物の異常	前置胎盤 胎盤早期剥離			
8	異常分娩	産道の異常 分娩時の異常出血			
9	異常分娩	帝王切開 骨盤骨			
10	異常分娩の看護	産科手術を受ける産婦の看護 骨盤位分娩産婦の看護			
11	異常分娩の看護	双胎分娩の看護 産科合併症産婦の看護			
12	異常産褥	産褥熱 泌尿器感染症			
13	異常産褥の看護	産科手術後の褥婦の看護 分娩後合併症の褥婦の看護			
14	異常新生児の看護	新生児仮死の看護 蘇生法 分娩外傷の看護			
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「母性看護学」2 医学書院				
成績評価の方法	ペーパーテスト レポート提出 出席状況				
メ ッ セ ー ジ	授業での学習が実習に活かせるよう、しっかり学習してほしい。 事例をたいせつに。患者さまから学ぶ。				

* 医師に講義の一部を分担していただく予定。交渉中

授 業 科 目 名	母性看護学特講	担 当 教 官	大 嶋 秀 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	V時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	看護過程				
授業の達成目標及び期待される学習効果	対象に応じた看護過程の展開ができる。				
回	講 義 題 目	内 容			特記事項
1	看護過程の展開	事例検討 正常妊婦			
2		事例検討 正常産婦			
3		事例検討 正常褥婦			
4		Gw発表			
5		事例検討 異常妊婦・産婦・産褥の事例			
6		事例検討 母性衛生上問題を持つ事例			
7		Gw発表			
8	試験				
テキスト, 教材, 参考書	系統看護学講座「母性看護学」2 医学書院				
成績評価の方法	ペーパーテスト レポート提出 出席状況				
メ ッ セ ー ジ	事例を通し看護過程を学び実習にいかす。				

授 業 科 目 名	精神看護学の基礎	担 当 教 官	田 村 文 子		
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期	火曜日	Ⅲ時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択			
授 業 の キ ー ワ ー ド	精神保健、心(精神)の健康・不健康、ライフサイクルと心の発達、対人関係、ストレスと適応、セルフケア、ノーマライゼーション、アドヴォカシー				
授業の達成目標及び期待される学習効果	人間の心の健康を成長発達、社会的適応の側面からとらえ、心の健康と不健康について理解する。また、この講義を通じて、学生が自己のメンタルヘルスの保持増進について理解できるようにすることを目標とする。				
授 業 の 概 要	心(精神)の健康とは何か、その考え方ととらえ方、心の発達と健康、対人関係と精神保健、ストレスと適応、家族・職場・学校・地域における心の健康について教授する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1 2	精神保健看護の歴史の変遷	精神障害者の処遇と精神保健看護について欧米、我が国の歴史の変遷を概観する。また、精神保健福祉の動向についても学習する。			
3 4	心の健康	心の健康とは何かについて考える。心の健康に影響する要因をあげ、精神保健の意義について理解できる。心の健康をとらえる概念として、(1)正常と異常、(2)精神と身体、(3)発達論の視点から考える。			
5 6	心の発達と健康	人のライフサイクル(乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期)における発達課題について概観する。家庭・学校・職場・地域などの環境と人間関係が心の健康・不健康(虐待、家庭内暴力、不登校、校内暴力等)に及ぼす影響について学習する。			
7 8	ストレスと適応	ストレスは環境(外界)からの刺激により引き起こされる。セリエによるストレス、ストレスサー、適応について学習する。ストレスが高いといわれる現代社会のさまざまな心の健康状態とストレスに適応していくためのウェルビーイング well being (心身のよりよい状態)について考える。			
9	ストレスコーピング	ストレスに対するさまざまなコーピング法(ストレス対処法)について概説する。また、学生自身が体験しているストレスと対処法について発表し合う。			
10	セルフケア理論	オレム、アンダーウッドによるセルフケア理論を用いて精神障害者のセルフケア活動について考える。			
11 12	精神保健看護の位置づけ、機能	カリキュラム改定と精神保健看護学の位置づけについて概説する。また、精神の健康問題をもつ人々の不安や苦痛の軽減、その成長や自立をたかめるための精神保健看護の機能と役割、チーム医療について学習する。			
13 14	精神障害者福祉の動向	これまでの精神障害者は多くのハンディキャップ(社会的不利益)を受けてきた。1995年の「精神保健および精神障害者福祉に関する法律」(精神保健福祉法)で精神障害者の真のノーマライゼーションの実現がめざされるようになった。精神障害者と社会参加について概説する。			
15	まとめ	まとめ			
テキスト、教材、参考書	新版看護学全書35 精神看護学[1] メヂカルフレンド社、1997.				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、グループワーク				
成績評価の方法	テストと授業中の発表を考慮する。				
メッセージ	学生自身のメンタルヘルスの保持増進について考える機会にして欲しい。				

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護 I	担 当 教 官	田 村 文 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期 後期	月曜日 金曜日	V時限 II時限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	精神分裂病、躁うつ病、精神保健看護、社会復帰活動(レクリエーション療法、作業療法、SST、生活指導)、セルフケア、ノーマライゼーション、QOL				
授業の達成目標及び期待される学習効果	精神の健康問題を持つ人に、看護婦(士)と患者の対人関係を基礎にして精神保健看護活動が展開できる。また、障害者の権利擁護のための役割が理解できる。				
回	講 義 題 目	内 容			
1 2	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について説明する。精神保健法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者－看護者関係、観察のポイント等について解説する。			
3 4	精神分裂病患者の看護	精神分裂病のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、昏迷)にある患者に対する援助の方法について説明する。			
5 6	精神分裂病患者の看護	精神分裂病のさまざまな状態(自傷行為、攻撃、離院等)にある患者に対する援助の方法について説明する。			
7 8	うつ病患者の看護	軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。			
9	てんかん患者の看護	てんかんのさまざまな発作(大発作、重積発作、小発作など)に対する看護援助および日常生活指導について説明する。			
10 11	神経症患者の看護	神経症(ヒステリー、摂食障害、登校拒否等)の看護援助について事例を通じて概説する。			
12 13	ICU症候群、リエゾン精神科看護	ICU・CCU等における術後管理の過程でみられる特異な神経障害であるICU症候群について概説する。精神的危機が生じる医療、看護の中で、精神看護的な知識や技術を基盤とした助言を行い、患者－看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神科看護を概説する。			
14	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史の変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実践について説明する。			
15	事例展開	事例を用いた看護過程の展開:グループワークにより看護診断について学習する。			
テキスト, 教材, 参考書	新版看護学全書36 精神看護学[2] メヂカルフレンド社、1997. (参)川野雅資:精神障害者の臨床ケア、メヂカルフレンド社、1998. Gail Wiscarz Stuart et al :神郡 博、田村文子他訳:精神看護学の新しい展開、医学書院MYW、1997. M.Townsend:神郡 博、田村文子他訳:精神科領域の看護診断、日総研出版、1990. 新井治子編:看護データブック、医学書院、1998.				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、VTR、グループワーク				
成績評価の方法	ペーパーテスト(100%)、と授業への出席状況を考慮する。				
メッセージ	授業中の私語は厳禁。出席は毎時間とる。黒板に書かれた事項は必ずノートにとること。難解な用語が多いので、質問は随時可能である。				

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護 II	担 当 教 官	田 村 文 子		
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前期	金曜日	V時限
単 位	1単位	必 修			
授 業 の キ ー ワ ー ド	精神分裂病、躁うつ病、てんかん、神経症、薬物療法、患者－看護者関係、生活療法、セルフケア				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	精神科の医療・看護は障害者を隔離・収容するものから、治療共同体を前提とする方向へ転換している。転換期にある精神医学の概念、精神障害の病因(内因、外因、心因)、分類(ICD-10、DSM-IV)、精神障害の諸症状(感覚、知覚、意志、欲動、思考、感情等)および治療法について概説する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1 2	精神分裂病	精神医学の変遷および、現在の精神科治療の場は、病院から地域へとその中心を移そうとしている。入院患者の60%を占める精神分裂病の概念、症状、診断、病型、治療(薬物療法、精神療法、社会復帰療法)について概説する。			
3 4	躁うつ病	分裂病と並ぶ内因性精神病の躁うつ病の概念、症状、診断(単極型感情障害、双極型感情障害)、病因(性格要因、生物学的要因、環境要因等)、治療(薬物療法、電撃療法)について概説する。			
5 6	神経症	精神的原因(心因)により生じる心身の機能障害である神経症の概念、神経症発症のメカニズム、性格と防衛機制、状態像・発症状況による分類、治療(精神療法(支持療法、表現療法、洞察療法、訓練療法、行動療法)および薬物療法)について概説する。			
7 8	児童期精神障害	心身の成長発達段階にある小児の精神医学が精神医療の独自の分野として発展していくことが社会的関心を集めている。児童・思春期の精神障害について子ども、家族、社会的環境要因の視点から考える。発達障害(発達遅滞、自閉症等)、神経症的障害(不登校、摂食障害等)、精神病的障害(精神分裂病、躁うつ病)について概説する。			
9	てんかん	意識障害とけいれん発作を主徴とする慢性脳疾患であるてんかんの原因による分類(真性、症候性てんかん)、発作型による分類(部分発作、全般発作等)、検査、治療および精神症状について概説する。			
10 11	老年期精神障害(痴呆)	初老期・老年期の精神障害の痴呆性疾患(アルツハイマー型痴呆、脳血管性痴呆等)について、痴呆の概念、症状、検査等について概説する。			
12 13	脳器質・症状精神病	脳器質性精神病(脳腫瘍、脳炎、進行麻痺)および症状精神病(アルコール依存、薬物乱用の身体症状、精神症状、治療)について概説する。			
14	物質関連障害	物質乱用による依存、嗜癖について概説する。(アルコール、薬物など)			
15	薬物療法	精神科領域で用いられる薬物療法について概説する。			
テキスト、教材、参考書	新版看護学全書36 精神看護学[2] メデカルフレンド社、1997 G.W.Stuart et al.神郡 博、田村文子他訳:精神看護学の新しい展開、医学書院MYW、1997. Mary C. Townsend、神郡 博、田村文子訳:精神科領域の看護診断、日総研出版、1990.				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、VTR:NCME精神神経科学ビデオプログラム 第4巻:精神分裂病の初期診断(21分)				
成績評価の方法	ペーパーテスト				
メ ッ セ ー ジ	難解な専門用語が多いので、質問は随時可能である。				

授 業 科 目 名	精神看護学特講	担 当 教 官	田 村 文 子		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	月曜日	II時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択			
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授業の達成目標及び期待される学習効果					
回	講 義 題 目	内 容			
		従来の精神疾患をもつ患者の看護を学ぶとともに、診療科の如何に関わらず人間対人間として看護婦(士)が患者と相互作用を展開するとき、どの様に患者に関わることが、患者を受容し、援助を展開することなのかをともに学習する。			
	テキスト, 教材, 参考書				
	成績評価の方法				
	メ ッ セ ー ジ				

授 業 科 目 名	看護研究 I	担 当 教 官	内 藤 和 美		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期	木曜日	I 時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ード	研究、記述研究、事例研究、実態調査研究、説明研究、研究計画、論文の構成、文献				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	どのような専門職も、職業を遂行していく過程で、その専門性に関わる研究が欠かせない。看護研究 I では研究とは何か、研究の種類、プロセス、論文のまとめ方など、まずは3年次の看護研究 II に取り組むために必要な知識を身につけ、ひいては看護者として研究をしていく基礎的な姿勢を培いたい。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	研究ということ	研究とはどういうことか、研究の4つの目的、研究の種類(研究資料による分類、対象数による分類、目的と方法による分類)			
2	文献	文献の種類、文献(先行研究・関連研究)の検索、文献の入手、文献の整理			
3	研究論文の構成と書き方	標題、はじめに(緒言、緒論)、対象と方法、結果、考察、おわりに(結語、結論)、付記・謝辞等、文献、図表			
4	事例研究	事例研究の特徴、事例研究のいろいろ(目的による、記述のしかたによる、資料の収集方法による)、事例研究の進め方、事例報告と事例研究			
5	看護の事例報告・事例研究の実例	事例報告を読む 1			
6	看護の事例報告・事例研究の実例	事例報告を読む 2			
7	看護の事例報告・事例研究の実例	事例研究を読む 1			
8	看護の事例報告・事例研究の実例	事例研究を読む 2			
9	実態調査研究	実態調査研究の特徴、実態調査研究のいろいろ(目的による、記述のしかたによる、資料の収集方法による)、実態調査研究の進め方			
10	実態調査研究の実例	実態調査の研究論文を読む 1			
11	実態調査研究の実例	実態調査の研究論文を読む 2			
12	演習	各自の「基礎看護学実習 II」時の記録を資料に、そこから「研究課題」「用いる情報」「補充する必要がある情報」を整理し、研究計画を立ててみる 1			
13	演習	各自の「基礎看護学実習 II」時の記録を資料に、そこから「研究課題」「用いる情報」「補充する必要がある情報」を整理し、研究計画を立ててみる 2			
	テキスト, 教材, 参考書	講義はプリントによる。(ファイルを用意してください)			
	成績評価の方法	演習課題の提出、平常点(出席、取り組み姿勢)			
	メ ッ セ ー ジ	看護研究 II に不可欠の基礎として、履修が望ましい。			

授 業 科 目 名	生命倫理	担 当 教 官	村 上 隆 夫		
対 象 学 生	3学年	学期及び曜日・時限	前期・後期	一曜日	一時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	生命、身体、魂、人格、ケア、権利				
授業の達成目標及び期待される学習効果	現代医療における哲学的な諸問題に関する基礎的な知識と基本的概念を学習し、具体的な状況における判断力・思考力を養う。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	伝統的宗教における生命と身体	ヨーロッパの哲学と思想の発展を概括しながら、身体と理性との関係及び他者の身体へのケアと他者の理性・人格への尊敬との関連について理解してゆく			
2	古代哲学における生命と身体	フレイザー、バクハオーフェン、フロイト等を参考にしながら原始社会における生命身体観を論ずる			
3	近代哲学における生命と身体	プラトン、アリストテレスを参考にしながら古代哲学における生命・身体観を論ずる			
4	伝統的社会における死	デカルト、カントを参考にしながら近代哲学における生命・身体観を論ずる			
5	近代社会における死	フォイエルバッハ、アリエスなどを参考にしながら前近代社会における死の在り方を論ずる			
6	疎外される身体と加工される身体	フォイエルバッハ、アリエスなどを参考にしながら近代的・キリスト教的社会における死の在り方を論ずる			
7	近代的所有権と身体	デカルト、マンフォートなどを参考にしながら、身体の客体化・対象化の過程を論ずる			
8	身体は誰のものか(臓器移植)	ロック等を参考にしながら、近代的人格概念の形成と身体の問題を論ずる			
9	近代的人権と医療	身体所有権と臓器移植に関する諸問題を論ずる			
10	人間が人間になるのはいつからか	キリガン等を参考にしながら、ケアと人格的關係との関連を論ずる			
11	人間が人間でなくなるのはいつからか	妊娠中絶と嬰兒殺しに関する哲学的問題を論ずる			
12	家族制度と医療	末期医療と安楽死・尊厳死に関する哲学的問題を論ずる			
13	子供は誰のものか	ケアの基本的単位としての家族の役割と医療の関連について論じる			
14	身体観と生命観の変貌	人工受精・遺伝子治療などに関する哲学的問題を論ずる			
15	総括と討論	身体の対象化・技術的操作とケアの関連について論ずる			
テキスト, 教材, 参考書	適宜プリントを配布し、その中で参考書を紹介する。				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心に、適宜討論を行う。				
成績評価の方法	筆記試験による				
メ ッ セ ー ジ					

授 業 科 目 名	国際保健医療協力	担 当 教 官	矢 嶋 和 江		
対 象 学 生	3学年	学期及び曜日・時限	前期	曜日	時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド	技術協力 異文化看護 PHC 伝統的医療 WHO ジェンダー				
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果	海外及び日本における国際的看護活動の実情を具体的に学習する中から文化の差異に応じた看護と人間の価値観へのより深い理解と看護に対する視野を広げる事を意図している。また、開発の視点からみた日本の国際保健医療の在り方やその意義・課題について理解する。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	世界の看護について	各国の保健医療と看護の現状について紹介し、先進国と途上国の格差について概観する。			
2	国際協力とは	国際協力の分野について概説し、日本の果たしてきた国際協力の経過を理解する。			
	1)WHOの機構とその役割	WHO機構について紹介し、健康政策における世界戦略の歴史的経過を理解する。			
3	保健医療分野における国際協力の今日的課題	医療協力の歴史的経過を概観し、医療協力の現状と今後の課題について考える。			
	1)看護の国際協力	看護の国際協力の意義および、看護職に求められる役割について理解する。			
	2)異文化理解と異文化看護	看護は人間の生活に視点をおいたものであり、人間の生活は文化と切り離せないものである。ここでは異文化理解について学ぶ。			
4	国際協力に求められる能力	異文化社会に同化してゆくために必要なスキルについて学び、とくに開発途上国で求められる看護の知識・技術を理解する。			
5	1)開発途上国における協力・活動の実践例	青年海外協力隊の活動事例 民間の医療協力の活動事例 国際緊急援助隊の活動事例 戦争と医療協力: 難民キャンプにおける活動			
6	母子家庭とジェンダー	母子保健の現状を途上国と先進国の比較の中から理解し、今後の課題について学ぶ。			
7	その他の問題およびまとめ	伝統的医療や慣習的医療における女性と子供の健康に関する人権問題について考える。			
	テキスト, 教材, 参考書	プリント、VTR、参考文献は適宜紹介			
	成績評価の方法	授業中の課題発表及び終了時のレポート提出により総合的に判断し評価する。			
	メッセージ	将来国際協力分野での活動を希望している学生には、ぜひ受講してほしい。			

授 業 科 目 名	歯と健康	担 当 教 官	浅見知市郎		
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・後期	金曜日	V時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択		
授 業 の キ ー ワ ー ド	口腔ケア、看護、介護				
授業の達成目標及び期待される学習効果	看護学生に口の中を見る目を養わせ、高齢化社会に向けて口腔ケアの重要性を認識させる。				
回	講 義 題 目	内 容			
1	歯とはどういうものか	1) 歯の構造と機能 2) 歯周組織の構造と機能 3) 口腔内諸組織の構造と機能 4) 加齢変化			
2	う蝕(虫歯)とはどういう疾患か	1) う蝕の原因 2) う蝕の診査法 3) う蝕の治療法と予防法			
3	歯周病とはどういう疾患か	1) 歯周病の原因 2) 歯周病の診査法 3) 歯周病の治療法と予防法			
4	義歯について	1) 義歯の種類 2) 義歯の取り扱いについて			
5	不正咬合とはなにか	1) 不正咬合の原因と種類 2) 矯正治療			
6	顎関節症とはなにか	1) 顎関節症の原因 2) 顎関節症の診査、診断 3) 顎関節症の治療法			
7	その他の歯科疾患について	1) 先天性異常 2) 外傷 3) 嚢胞性疾患 4) 腫瘍 5) その他			
8	口腔内の観察	2人1組となり、相互に口腔内を観察し合い記録する。			
テキスト, 教材, 参考書	歯科医療の最前線 下野正基著 講談社ブルーバックス				
成績評価の方法	筆記試験で判断する。				
メ ッ セ ー ジ	是非、受講し歯科に詳しい看護婦(士)を目指してください。				

授 業 科 目 名	看護と私	担 当 教 官	大 嶋 秀 子		
対 象 学 生	3学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前期・後期	一曜日	一時限
単 位	1単位	必修・選択必修・選択	選択必修		
授 業 の キ ー ワ ー ド					
授 業 の 達 成 目 標 及 び 期 待 さ れ る 学 習 効 果					
回	講 義 題 目	内 容			
		<p>本科目は看護学の総合科目として位置づけてある。在学3年間で看護に関連する多くの諸学問を学び、臨地実習に於いては実践を学んできた。それらのことを踏まえ、卒業前に看護にとって最も基本的な課題である看護の本質、生命観、医療の倫理などを探求し、視野を広げ、思考を深め、3年間の学びを統合する。さらに講義やグループ演習による学習の過程において、相互の啓発を図りチーム医療を担う者として求められる、判断力や問題解決能力を身に付ける事を目指す。</p>			
テキスト, 教材, 参考書	プリント				
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 グループワーク				
成績評価の方法	レポート提出、グループワークへの参加状況など総合的に評価				
メ ッ セ ー ジ					